平成３１年度入学生用

２年次（令和２年度）開講

履　修　要　項

(syllabus)

児童教育学科

鹿児島女子短期大学

Kagoshima Women's College

平成31年度入学生　教 育 課 程（2年次:令和2年度開講）

別表 第1 児童教育学科教育課程表　　**授業科目名の前の数字はページ番号**

区分		授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
一般教養科目		**わたしを知る・わたしを創る**								
		心と思想の探求（人間の心に迫り人間を知る）								
		日本語表現の基礎	講　義		2	2	2			
		倫 理 学	講　義		2	2	2			
		文　　学	講　義		2	2	2			
		心 理 学	講　義		2	2	2			
		健康の探求（健康な心と体をつくる）								
	7	体育講義	講　義		1			1		幼教免・小教免・保育士証必修
	9	体育実技	実　技		1				1	幼教免・小教免・保育士証必修
		社会を知る・社会につながる								
		社会の探求（社会に目を向ける）								
		社 会 学	講　義		2	2	2			
		国際化と経済	講　義		2	2	2			
		日本国憲法	講　義		2		2			幼教免・小教免必修
		歴 史 学	講　義		2	2	2			
	11	WE LOVE 鹿児島！	演　習	2					2	
		キャリアの探求（職業を考え人生を設計する）								
		インターンシップ	演　習		2	2				
	13	キャリアガイダンス	演　習	2		1			1	
		世界を知る・世界を広げる								
		異文化の探求（海外に目を向ける）								
		海外事情	演　習		2		2			海外研修
		英語演習Ⅰ	演　習	2		2				英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修
		フランス語演習Ⅰ	演　習			2				
		中国語演習Ⅰ	演　習			2				
		韓国語演習Ⅰ	演　習			2				
		日本語演習Ⅰ	演　習			2				
		英語演習Ⅱ	演　習	2			2			
		フランス語演習Ⅱ	演　習				2			＊日本語演習は留学生対象科目
		中国語演習Ⅱ	演　習				2			
		韓国語演習Ⅱ	演　習				2			
		日本語演習Ⅱ	演　習				2			
		自然界の探求（いろいろな世界に目を向ける）								
		数学基礎	講　義		2	2	2			
		理科基礎	講　義		2	2	2			
		分子からみた生物	講　義		2	2	2			
		人間と環境	講　義		2	2	2			
最低修得単位数				8	8					
卒業最低修得単位数　16										

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	卒業履修単位数 選択	小教免修得単位数 必修	小教免修得単位数 選択	幼教免修得単位数 必修	幼教免修得単位数 選択	保育士証修得単位数 必修	保育士証修得単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
専門科目（教科及び教職に関する科目等）	17	国　語(書写を含む)	講　義		2	2									2	
	19	社　　会	講　義		2		2								2	
	21	算　　数	講　義		2	2								2		
	23	理　　科	講　義		2		2								2	
	25	生　　活	講　義		2	2								2		
		音　　楽	演　習		2	2						2				
		図画工作	演　習		2	2						2				
	27	家　　庭	講　義		2		2								2	
	29	体　　育	演　習		2	2								2		
	31	外国語	演　習		2	2								2		
		国語科指導法	演　習		2	2							2			
		社会科指導法	演　習		2	2						2				
		算数科指導法	演　習		2	2						2				
	33	理科指導法	演　習		2	2								2		
	35	生活科指導法	演　習		2	2									2	
		音楽科指導法	演　習		2	2							2			
		図画工作科指導法	演　習		2	2							2			
	37	家庭科指導法	演　習		2	2									2	
	39	体育科指導法	演　習		2	2									2	
	41	外国語指導法	演　習		2	2									2	
		幼児と健康	演　習		1			1		1		1				
	43	幼児と人間関係	演　習		1			1		1				1		
	45	幼児と環境	演　習		1			1		1				1		
		幼児と言葉	演　習		1			1		1		1				
		幼児と表現	演　習		2			2		2		2				
	47	保育内容総論	演　習		2			2		2					2	
	49	保育内容(健康)の指導法	演　習		2			2		2				2		
	51	保育内容(人間関係)の指導法	演　習		2			2		2					2	
		保育内容(環境)の指導法	演　習		2			2		2			2			
		保育内容(言葉)の指導法	演　習		2			2		2		2				
		保育内容(表現)の指導法	演　習		2			2		2			2			
		教育原理	講　義	2		2		2		2			2			
		保育原理	講　義		2			2		2		2				
		教職概論	講　義	2		2		2		2		2				
		教育制度論	講　義	2		2		2			2	2				
		教育心理学▲	講　義	2		2		2		2		2				
		特別支援教育・保育	講　義	2		2		2		2			2			
	53	教育課程・保育計画の意義と編成・評価	講　義	2		2		2		2				2		
	55	道徳教育の指導法	演　習		2	2								2		
	57	総合的な学習の時間の指導法	演　習		2	2									2	
	59	特別活動の指導法	演　習		2	2								2		
		教育の方法・技術	講　義	2		2							2			
		保育の方法・技術	講　義					2		2		2				
		生徒指導・進路指導	講　義		2	2							2			
	61	幼児理解	講　義		2			2		2					2	

注:　☆印＝保育士選択必修科目(2単位以上選択)　▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格必修

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	卒業履修単位数 選択	小教免修得単位数 必修	小教免修得単位数 選択	幼教免修得単位数 必修	幼教免修得単位数 選択	保育士証修得単位数 必修	保育士証修得単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
専門科目（教科及び教職に関する科目等）	63	教育相談▲	講義	2		2		2		2				2		
		幼稚園教育実習Ⅰ指導	講義		1		1	1					1			小教免・幼教免必修
		幼稚園教育実習Ⅰ	実習		2	2		2					2			
	65	小学校教育実習指導	講義		1	1								1		小教免必修
	67	小学校教育実習	実習		2	2		3						2		幼教免はいずれかの実習指導及び実習を選択必修
	69	幼稚園教育実習Ⅱ指導	講義		1									1		
	71	幼稚園教育実習Ⅱ	実習		2									2		
	73	保育・教職実践演習	演習	2				2		2					2	
	75	小学校教職実践演習	演習			2									2	
		社会福祉	講義	2		2		2		2		2				
		情報機器演習	演習	2		2		2		2		2				
	77	教師と法	講義		2		2							2		
		子どもと人権	講義		1		1		1		1		1			
	79	環境教育演習	演習		1		1								1	
	81	カウンセリング入門▲	講義		1		1		1		1				1	
	83	生涯学習論	講義		2		2								2	
	85	家族関係論	講義		2		2		2		2				2	
		子どもと音楽Ⅰ	演習		2				2		2	2				
		子どもと音楽Ⅱ	演習		2				2		2		2			
	87	子どもと音楽Ⅲ	演習		2				2		2			2		
	89	子どもと音楽Ⅳ	演習		2				2		2				2	
		子どもと造形Ⅰ	演習		2				2		2	2				
	91	子どもと造形Ⅱ	演習		2				2		2			2		
	93	子どもと身体表現	演習		2				2		2				2	
	95	子どもと運動遊び	演習		2				2		2			2		
	97	読書と豊かな人間性	演習		2		2		2		2				2	司書教諭必修
専門科目（保育士証に関する科目等）		子ども家庭福祉	講義		2					2			2			
		保育者論	講義		2					2			2			
	99	子ども家庭支援論	講義		2					2					2	
		社会的養護Ⅰ	講義		2					2			2			
	101	社会的養護Ⅱ	演習		1					1				1		
		保育の心理学	講義		2					2		2				
	103	子ども家庭支援の心理学	演習		2					2					2	
		子どもの保健	講義		2					2		2				
		子どもの健康と安全	演習		1					1			1			
	105	子どもの食と栄養	演習		2					2				2		
		子どもの理解と援助	演習		1					1			1			
	107	子育て支援	演習		1					1					1	
		乳児保育Ⅰ	講義		2					2		2				
		乳児保育Ⅱ	演習		1					1			1			
		保育所実習Ⅰ指導	演習		1					1			1			
		保育所実習Ⅰ	実習		2					2			2			
	109	施設実習Ⅰ指導	演習		1					1				1		
	111	施設実習Ⅰ	実習		2					2				2		
	113	保育所実習Ⅱ指導	演習		1					3				1		保育士証はいずれかの実習指導及び実習を選択必修
	115	保育所実習Ⅱ	実習		2									2		
	117	施設実習Ⅱ指導	演習		1									1		
	119	施設実習Ⅱ	実習		2									2		
最低修得単位数計				22	24	69		50		74	2					

卒業最低修得単位数　必修 22　選択 24　合計 46

最低修得単位数総計　卒業 62　［小教免 85］　［幼教免 66］　［保育士証 92］

別表　第1の2　司書教諭養成科目

（○印は専門科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 単位数		開講学期 単位数				備考
			必修	選択	1前	1後	2前	2後	
121	学校経営と学校図書館	講　義	2				2		
123	学校図書館ﾒﾃﾞｨｱの構成	講　義	2				2		
125	学習指導と学校図書館	講　義	2					2	
(97)	○読書と豊かな人間性	講　義	2					2	
127	情報メディアの活用	講　義	2					2	
	最低修得単位数		10						
	最低修得単位数総計　［司書教諭（小教免＋10）　95　］								

一般教養科目

科目名	体育講義	科目ナンバー	
担当者	金浦　美咲		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免・幼教免・保育士証		

授業の概要	短大生活において充実した生活を送り、さらに生涯に渡って豊かな人生を送るために、心身の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義ではスポーツ及び健康についての意義や役割を多角的な視点から概説し、現代社会における健康増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。
授業の到達目標	1. スポーツについての基礎的な理解を深めることができる 2. 健康についての基礎的な理解を深めることができる 3. スポーツと健康における相互関係の理解を深めることができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（スポーツ及び健康についての概念）	金浦
第2回	スポーツと国際理解	金浦
第3回	運動と健康を考える①（有酸素運動と筋力トレーニング）	金浦
第4回	運動と健康を考える②（運動処方と生活習慣病）	金浦
第5回	運動と栄養を考える①（運動習慣と効果的なダイエット法）	金浦
第6回	運動と栄養を考える②（運動種目とスポーツ栄養学）	金浦
第7回	スポーツをめぐる現状と今日的課題	金浦
第8回	総括・まとめ	金浦
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	参考資料等を熟読する	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義内容を振り返る	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応
オフィスアワー	水曜日　10：35～12:55　研究室（体育館202号室）

テキスト	適宜資料を配布する
参考文献等	『これからの健康とスポーツの科学 第4版』　KSスポーツ医科学書
成績評価基準	健康に関する理解と積極的に健康管理に関われるようにする
成績評価の方法	定期試験（70%）、受講態度（30%）
GPA基準	
備考	

科目名	体育実技	科目ナンバー	
担当者	大村　一光、金浦　美咲		
授業形式	実技	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加（関わり）し，健康・体力の保持・増進ができるようにする。
授業の到達目標	1．スポーツ活動の楽しさを理解する 2．積極的に健康管理に関われるようにする

授業計画		担当者
第1回	前半活動オリエンテーション、活動種目（バドミントン、バレーボール、卓球）の決定	大村・金浦
第2回	種目別活動I ルール説明、簡易ゲーム	大村・金浦
第3回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム	大村・金浦
第4回	種目別活動III ダブルス戦等（チーム内ゲーム）	大村・金浦
第5回	種目別活動IV ダブルス戦等（対抗戦）	大村・金浦
第6回	種目別活動V ダブルス戦等（対抗戦 2回戦）	大村・金浦
第7回	種目別活動VI シングル戦等（チーム内ゲーム）	大村・金浦
第8回	種目別活動VII 団体戦等	大村・金浦
第9回	後半活動オリエンテーション、活動種目（バドミントン、バレーボール、卓球）の決定、活動	大村・金浦
第10回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム	大村・金浦
第11回	種目別活動III ダブルス戦等（チーム内ゲーム）	大村・金浦
第12回	種目別活動IV ダブルス戦等（対抗戦）	大村・金浦
第13回	種目別活動V シングル戦等（チーム内ゲーム）	大村・金浦
第14回	種目別活動VI シングル戦等（入れ替え戦）	大村・金浦
第15回	種目別活動VII 団体戦等	大村・金浦

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ルール等を理解して、身体運動やスポーツを実施できるようにする	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	大村：水曜日～金曜日　12:10～12:55　研究室（体育館101号室） 金浦：水曜日　10：35～12:55　研究室（体育館202号室）

テキスト	特になし
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする
成績評価の方法	受講態度等（60%）　技術・技能点（40%）
GPA基準	
備考	

科目名	WE LOVE 鹿児島！	科目ナンバー	
担当者	大村 一光		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	学生を鹿児島再発見の旅へと導き、自分の中の地域を見つめ、地域の中に自分自身を位置づける「ローカル・アイデンティティ」の自覚を促し、それを「生きる力」とする。同時に、本学COC活動の「すこやか教育」の核となる科目として意欲的に地域課題に取り組み、社会に貢献する実践力を身につけて、卒業後は「地域活性化の担い手」として地域貢献できる人材となることを目指す。
授業の到達目標	1. 「ローカル・アイデンティティ」を自覚し、「生きる力」とする 2. 地域課題への取り組みを通して、社会貢献の実践力を体得する 3. 意欲的な「地域活性化の担い手」としての基礎を固める

授業計画		担当者
第1回	全体オリエンテーション、分野の希望調査	A
第2回	分野別オリエンテーション	分野担当者
第3回	分野別活動①	分野担当者
第4回	分野別活動②	分野担当者
第5回	分野別活動③	分野担当者
第6回	分野別活動④	分野担当者
第7回	分野別活動⑤	分野担当者
第8回	分野別活動⑥	分野担当者
第9回	分野別活動⑦	分野担当者
第10回	プレゼンテーションについての指導	渡邉
第11回	プレゼンテーションの準備①（活動の振り返りと内容の企画）	分野担当者
第12回	プレゼンテーションの準備②（内容の検討）	分野担当者
第13回	プレゼンテーションの準備③（内容の完成と分野内での交流）	分野担当者
第14回	各分野の活動報告会①（前半グループ）	A
第15回	各分野の活動報告会②（後半グループ）	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各分野の課題への取り組み（準備物の作成、プレゼンテーションの準備など）	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各分野の課題への取り組み（レポート作成、振り返りなど）	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（プレゼン試験を含む）求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後や各分野の担当がオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	大村（責任者） 水・金曜日 12：10～12：55 体育館（101号室）

テキスト	特になし
参考文献等	各分野で必要となる資料について、適宜紹介する。
成績評価基準	分野毎に異なるため、分野別オリエンテーション時に説明する。
成績評価の方法	活動状況（60%）、プレゼンテーション等（40%）による総合評価
GPA基準	
備考	COC関連科目　授業計画について、変更される可能性があります。 学科教員（A）：大村・池田・村若・宇都・平嶋・松崎・井上・松元・横峯・内田・宮里・本田・赤瀬川・丸田・松下・中村・生田・藤川・渡邉・佐藤・金浦 分野によって、木曜5・6時限目以外で開講されることもある。 分野別活動①～⑦の内容については、分野別オリエンテーション時に説明する。

科目名	キャリアガイダンス（二年生）	科目ナンバー	
担当者	大村　一光		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	(1)　／2	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	キャリアガイダンスの目的は、職業選択を通してあなたらしい生き方を見つけることです。この授業では、自分の過去をふりかえり、今を見つめ、将来を考えることで「自立した自分らしい生活設計」を作り上げられることを目的にしています。2年後期のキャリアガイダンスでは、実習体験や就職活動を通して、職業人としての自分自身の生き方を考えていきます。
授業の到達目標	就職活動や実習を通して自己理解を深め、職業選択に生かし、卒業後の職業生活について理解する

授業計画		担当者
第1回	保育者のキャリア形成について	A
第2回	実習の振り返り（1年生へ伝える）	A
第3回	就職ガイダンス①	A
第4回	就職についての個別面談①	A
第5回	就職についての個別面談②	A
第6回	働くための法律	A
第7回	多様なキャリア形成	A
第8回	就職ガイダンス②	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	1年次の生活・学習内容・実習を振り返り、将来の進路について情報を集める	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	自分の目指す進路に関わらせ、講義の内容を振り返る	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては、ホーム担任が適宜対応する
質問・相談方法	オフィスアワーにて対応
オフィスアワー	大村（責任者） 水曜日～金曜日　12:10～12:55　研究室（体育館101号室）

テキスト	学科独自に作成した資料 就職支援ガイド（本学作成） キャリア形成ガイドブック（鹿児島市）
参考文献等	特になし
成績評価基準	自己理解を深め、働くことや職業の意義をふまえた上で、目指す職業について理解し、準備を進めていること。
成績評価の方法	受講態度（30%）　レポート（70%）
GPA基準	
備考	COC関連科目 学科教員（A）：大村・池田・村若・宇都・平嶋・松崎・井上・松元・横峯・内田・宮里・本田・赤瀬川・丸田 松下・中村・生田・藤川・渡邉・佐藤・金浦 担当教員ごとのオフィスアワーを、オリエンテーションで配布

専 門 科 目

科目名	国語（書写を含む）	科目ナンバー	J小1401
担当者	藤川　和也		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校国語科で扱われる教材について国語学、国文学などの学問的視点から分析し、グループ討議などを踏まえて、それらの教材がどのような価値を持っているかについて理解することを目指します。また、学年、発達段階も踏まえて、それらの教材を授業化する視点について身に付けることを目指します。
授業の到達目標	1. 小学校国語科の各領域・各事項及び書写の目的・内容の学習価値を理解する 2. 学習内容にふさわしい国語科の教材開発ができる 3. 教材の持つ価値について、保・幼・小連携の視点から分析できる

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス— 保育内容「言葉」から小学校国語科へ	藤川
第2回	「読むこと」に関する教材分析—文学的文章	藤川
第3回	「読むこと」に関する教材分析—説明的文章	藤川
第4回	「読むこと」に関する学習活動の紹介—読書指導・音読など	藤川
第5回	「話すこと・聞くこと」に関する教材分析ー話すこと	藤川
第6回	「話すこと・聞くこと」に関する教材分析ー聞くこと	藤川
第7回	「話すこと・聞くこと」に関する教材分析ー話し合うこと	藤川
第8回	「書くこと」に関する教材分析—日記・記録文	藤川
第9回	「書くこと」に関する教材分析—報告文・手紙文	藤川
第10回	「書くこと」に関する教材分析—詩・物語	藤川
第11回	書写に関する学習活動の紹介	藤川
第12回	〔知識及び技能〕（1）言葉の特徴や使い方に関する事項に関する教材分析	藤川
第13回	〔知識及び技能〕（2）情報の扱い方に関する事項の教材分析	藤川
第14回	〔知識及び技能〕（3）我が国の言語文化に関する事項の教材分析	藤川
第15回	総括 国語科教材研究の在り方を考える	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・ことばドリル、お伝と伝じろう、わかる国語 読み書きのツボ（NHK for school）などの国語科教育に関連する番組を視聴する。 ・小学校で使用されている国語教科書を図書館で借り、どのような教材があるのか読む。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容の振り返りと感想をまとめる	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（定期試験を含む）、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	月曜日　15:00～16:00　研究室（西館405号室）

テキスト	『小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説　国語編』 文部科学省　東洋館出版社　2018　￥162 （ISBN-10: 4491034621）
参考文献等	『国語教育指導用語辞典（第五版）』 田近洵一・井上尚美・中村和宏編　教育出版　2018　￥4,000 （ISBN-10: 4316804618） 『あらゆる教材を「図解」する！ 小学校国語科教材研究シートの活用』 「ことばの学び」を開く会・香月正登 東洋館出版社　2013　￥1,900　（ISBN-10: 4491029563）
成績評価基準	小学校国語科の各領域・各事項及び書写の目的・内容の学習価値を理解したうえで、学習内容にふさわしい国語科の教材について、保・幼・小連携の視点から分析できる。
成績評価の方法	毎時間ごとの授業感想ミニレポート（60%）、最終レポート（40%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	社会	科目ナンバー	J小1402
担当者	松﨑　康弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	社会科教育法で学んだ基礎的な理論等を踏まえ、地域や子どもの実態に応じて社会科の具体的な教材開発ができることを目的とする。「実践研究・教材開発」では様々なテーマと提示し、その実践事例について検討するとともに、自分ならどのような実践を行うか考える。「フィールドワーク」では、県や市町村の産業についての学習で対象となりうる場に赴き、地域と教育の関係を理解する。
授業の到達目標	1. 様々な教材の有用性を理解している 2. 体験をとおして地域と教育の関係を理解している 3. 授業内容を応用して自分なりの教材を構想できる

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション（本科目の目的の理解）	松﨑
第2回	実践研究・教材開発①（マンガの教材化）	松﨑
第3回	実践研究・教材開発②（恋愛の教材化）	松﨑
第4回	実践研究・教材開発③（CMの教材化）	松﨑
第5回	実践研究・教材開発④（食育と社会科）	松﨑
第6回	実践研究・教材開発⑤（法教育）	松﨑
第7回	実践研究・教材開発⑥（地名教育）	松﨑
第8回	実践研究・教材開発⑦（地域の歴史教材）	松﨑
第9回	調べ学習・見学体験学習の実践研究	松﨑
第10回	フィールドワーク実施地域の地域性理解	松﨑
第11回	フィールドワーク①（鹿児島県内の農業）	松﨑
第12回	フィールドワーク②（鹿児島県内の水産業）	松﨑
第13回	フィールドワーク③（鹿児島県内の地域学習）	松﨑
第14回	フィールドワークの振り返りと授業構想	松﨑
第15回	総括	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導要領解説の該当部分を読んでおくこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各テーマに応じた教材探しを指示するので、収集すること。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室）

テキスト	『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　社会編』 文部科学省　日本文教出版　2018年　142円（税抜き）（ISBN978-4-536-59009-9）
参考文献等	『日韓交流授業と社会科教育』 谷川彰英編著　明石書店　2005年 （ISBN:9784750321615） ほか
成績評価基準	・様々な教材の有用性を理解できていること。 ・授業内容を応用して自分なりの教材を構想し発表できること。
成績評価の方法	最終レポート(50%)　発表(20%)　ミニレポート(30%)
GPA基準	
備考	COC科目 フィールドワークは日曜日または祝日を使い、一日かけて行う。５０００円程度の費用を要する。

科目名	算数	科目ナンバー	J小1303
担当者	内田　豊海		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	子どもは生まれながらにして（遺伝的に）数学能力を有しています。この授業では、それがいかに発達し、教育によっていかに伸びるのかを知ることをスタートとします。子どもの内にある能力を、外の世界の出来事と結びつけ、深めることで子どもはどのように数学的能力を身に付けるかを、実際に、主体的にアクティブラーニングを用いた数学的活動やICT の活用を通し体験・学習しながら考察していきます。最終的には、幼児期での学習が、小学校以降、どのように発展するかを見据えながら、子どもの成長に携うことを目指します。
授業の到達目標	1. 幼少期における算数教育の意義を理解する 2. 算数的活動を通して、その楽しさと深さ、意義を知る

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス	内田
第2回	算数を学習することの意義	内田
第3回	子どもの発達と算数の関係	内田
第4回	身の回りにあふれる「形」の世界	内田
第5回	ものを頭の中で分解しよう　展開図	内田
第6回	数を用いた遊びを通して計算してみよう	内田
第7回	式を使わずに計算してみよう	内田
第8回	測れないものの測り方	内田
第9回	時間について考えてみる	内田
第10回	身に染み付いている数感覚	内田
第11回	数える力　どうしたら上手に早く数えられるか	内田
第12回	パターンを見つけてみよう	内田
第13回	無限について考えてみる	内田
第14回	算数を使って、ものを選んでみよう	内田
第15回	算数を勉強することの意義の再検討	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	対象単元の指導要領を予め精読する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容に即した教材開発をする	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる
オフィスアワー	月曜日　13:00～16:00　研究室（西館412号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『小学校教師のための算数と数学15講』溝口達也編　ミネルヴァ書房　2019年　2376円　（ISBN:978-4624084289）
成績評価基準	各単元についての知識　算数的問題解決能力の習熟度愛
成績評価の方法	最終レポート（70%）　小レポート（30%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	理科	科目ナンバー	J小1404
担当者	横峯　孝昭		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	小学校学習指導要領に示されている理科の目標を理解し、各学年における目標、それに対応する学習内容について理解を深めることを目的とする。また、理科指導法で深めた知識をもとにここに教材研究をしてもらう。
授業の到達目標	1. 小学校理科の目標・内容を理解する 2. ものづくりを模擬授業を通して考え、実践力を養う

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	小学校理科の全体目標	横峯
第3回	小学校理科の単元	横峯
第4回	学習指導案の作成について（小学校教科書をもとに）	横峯
第5回	小学校理科の基本的な考え方　物理編	横峯
第6回	小学校理科の基本的な考え方　化学編	横峯
第7回	小学校理科の基本的な考え方　生物編	横峯
第8回	小学校理科の基本的な考え方　地学編	横峯
第9回	小学校理科の基本的な考え方　総括	横峯
第10回	ものづくりについて考える（仮説実験授業とは）	横峯
第11回	各々の教材研究について（思案）	横峯
第12回	各々の教材研究について（試行錯誤）	横峯
第13回	各々の教材研究について（提示）	横峯
第14回	各々の教材研究について（評価）	横峯
第15回	総括	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	理科としての知識は中学校までの一般常識があれば十分である。その点を踏まえて事前に勉強してよくと良い。ものづくりのための教材研究を学年ごとに考える努力をしてもらいたい。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義毎に行う実験の理論について、児童に説明するとしたらという趣味レーションをしてほしい	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室（西館401号室）

テキスト	『小学校学習指導要領』 文部科学省　平成29年3月　201円（ISBN：978-4-491-03460-7） 『小学校学習指導要領解説　理科編』 文部科学省　平成29年3月　111円　（ISBN978-4-491-03463-8） 『ものづくりハンドブック1～10「楽しい授業』編集委員会（仮説社）
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	ものづくりについてしっかりと教材研究を行う
成績評価の方法	講義中に課す課題の達成によって評価する（100%）
GPA基準	
備考	

科目名	生活	科目ナンバー	J小1305
担当者	松﨑　康弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	生活科の「学習材開発」にスポットを当て、フィールドワークも含め体験的に学ぶことを目指す。　また、地域や環境を生かした「遊びを通した学び」を実践できることを目指す。
授業の到達目標	1．生活科を実践できる知識・技能を習得する 2．地域を見つめ、環境を教育に生かそうとする意識をもつ

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション（学習材開発の観点）	松﨑
第2回	「学校と生活」の学習材開発	松﨑
第3回	「家庭と生活」の学習材開発	松﨑
第4回	「地域と生活」の学習材開発	松﨑
第5回	「公共物や公共施設の利用」の学習材開発	松﨑
第6回	「季節の変化と生活」の学習材開発	松﨑
第7回	「自然や物を使った遊び」の学習材開発	松﨑
第8回	「動植物の飼育・栽培」の学習材開発	松﨑
第9回	「生活や出来事の伝え合い」の学習材開発	松﨑
第10回	「自分の成長」の学習材開発	松﨑
第11回	「まち探検」の実践（短大周辺を歩く）	松﨑
第12回	自然体験・食育体験①（自然を生かした活動の実際）	松﨑
第13回	自然体験・食育体験②（野菜の観察の実際）	松﨑
第14回	自然体験・食育体験③（食育の体験的理解）	松﨑
第15回	総括（生活科の学習材開発の在り方）	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	学習指導要領解説の該当部分を読んでおく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	レポート作成に向けて総復習を行う。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室）

テキスト	『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　生活編』 文部科学省　東洋館出版社　2018年　134円（税抜き）（ISBN:978-4-491-03464-5）
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育１０　初等生活科教育』 片平克弘・唐木清志編著　ミネルヴァ書房　2018年　ほか
成績評価基準	・生活科を実践できる基本的な知識・技能を有している。
成績評価の方法	授業テーマごとに課すミニレポート（100%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目 授業計画⑫～⑭の体験学習は日曜日又は祝日を一日使って実施する。（数千円の費用がかかる。）

科目名	家庭	科目ナンバー	J小1408
担当者	山﨑　歌織		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	家庭科の目標・内容を基に科学的な根拠や実践的・体験的な活動を考慮し、多様化する家庭生活に対応できるよう、基礎的内容を中心に学習を進める。主に下記授業計画に示した内容について学習し、生活者としてよりよい家庭生活が送れるように問題や課題を主体的に発見、解決することを目標とする。また、家族の協力により柔軟に楽しく家庭生活を送ることができることを理解し、指導にいかせるよう導く。実習での指導法や注意点について検討するために実際に調理実習を行う。
授業の到達目標	1．家庭生活に必要な基礎知識や指導法を習得する 2．家庭生活の変容を認識し、環境に合わせた指導法について考える 3．基本的な調理操作を行うことにより、注意への意識を高めた授業計画を作成できる

授業計画		担当者
第1回	家庭科の目標と内容について	山﨑
第2回	日常の食事と調理の基礎：栄養・食品に関する指導	山﨑
第3回	日常の食事と調理の基礎：調理・献立に関する指導	山﨑
第4回	日常の食事と調理の基礎：食生活に関する指導	山﨑
第5回	日常の食事と調理の基礎：食生活指針について	山﨑
第6回	日常の食事と調理の基礎：調理実習の注意	山﨑
第7回	快適な衣服：衣服の着方・手入れに関する指導	山﨑
第8回	快適な衣服：被服材料に関する指導	山﨑
第9回	快適な衣服：被服制作に関する指導	山﨑
第10回	快適な衣服：被服制作	山﨑
第11回	快適な住まい方に関する指導	山﨑
第12回	物の選び方・購入に関する指導	山﨑
第13回	環境と生活に関する指導	山﨑
第14回	調理実習（調理の基本）	山﨑
第15回	総まとめ・補足説明等	山﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	高等学校の家庭の授業経験を活かして、家庭科全般、特に調理・献立作成について教授する。		
事前学習	次回の授業範囲についてテキストを読む 日頃から家庭生活を自主的に営み、快適な家庭生活とは何か考える	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ワークシートへの記入やレポート提出をすることで、授業の復習をおこなう	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	提出した課題に対し評価し、可能であれば早めに返却する。
質問・相談方法	毎時授業時に質問票を配布し、その用紙に記入してもらう。相談は、オフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	水曜日　15:00～17:00　研究室（西館　308号室）

テキスト	『小学校家庭科の指導』 中間美佐子、多々納道子　建帛社　2010年　2,200円（ISBN：978-4-7679-2098-6） 『小学校学習指導要領解説　家庭編』 文部科学省　株式会社東洋館出版社　最新版　90円　（ISBN：978-4-491-02374-8）
参考文献等	適宜プリントを配布
成績評価基準	家庭生活に必要な基礎的知識や指導法を習得し、より快適な家庭生活を送る方法を積極的に考え、的確な指導ができると判断された場合は、合格とする。
成績評価の方法	定期試験（60%）や課題レポート（30%）、受講態度（10%）により総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	体育	科目ナンバー	J小1309
担当者	金浦　美咲		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	幼児期および児童の発育発達に即した運動の内容について、実技を通じて理解を深める。また、実践力と指導および援助の能力を培う。取り扱う内容は、小学校学習指導要領の体育科の内容として示されている内容を中心とし、主に種々の運動遊びや、体つくり運動、器械運動系、陸上運動系、表現運動系、ボール運動系などから取り扱う。
授業の到達目標	1. 運動遊びや運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。 2. グループで話し合い、ルールや場の工夫を行うことができる。 3. 運動遊びや各種運動の基礎的な技能を身につけることができる。 4. 運動遊びや運動の指導法について理解を深めることができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（体育および運動遊びの意義について）	金浦
第2回	実技演習1（幼児期の運動遊び）	金浦
第3回	実技演習2（体つくり運動：体ほぐしの運動）	金浦
第4回	実技演習3（体つくり運動：多様な動きをつくる運動）	金浦
第5回	実技演習4（器械運動系：マット運動）	金浦
第6回	実技演習5（器械運動系：跳び箱運動）	金浦
第7回	実技演習6（陸上運動系）	金浦
第8回	ボールゲームの理解（対決情況に着目して）	金浦
第9回	実技演習7（ボール運動系：ボールゲーム、鬼遊び）	金浦
第10回	実技演習8（ボール運動系：ゴール型ゲーム）	金浦
第11回	実技演習9（ボール運動系：ネット型ゲーム）	金浦
第12回	実技演習10（ボール運動系：ネット型連携プレイによる簡易化されたゲーム）	金浦
第13回	実技演習11（ボール運動系：ベースボール型）	金浦
第14回	実技演習12（表現運動系）	金浦
第15回	総括・まとめ	金浦

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	参考資料等を熟読する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義内容を振り返る	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応
オフィスアワー	水曜日　10：35～12:55　研究室（体育館202号室）

テキスト	小学校学習指導要領解説　体育編　（平成29年6月　文部科学省） 新版　体育科教育学入門（高橋健夫編著、大修館書店）
参考文献等	誰もがプレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり（鈴木直樹他著、教育出版）
成績評価基準	運動遊びや運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。 2. グループで話し合い、ルールや場の工夫を行うことができる。 3. 運動遊びや各種運動の基礎的な技能を身につけることができる。 4. 運動や運動遊びの指導法について理解を深めることができる。
成績評価の方法	定期試験（80%）、受講態度（20%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	外国語	科目ナンバー	J小1310
担当者	生田　和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校の外国語活動および外国語の授業を担当するための英語運用能力を理論と実践を通して高める。特に英語の各技能については毎回の課題、実践、小テストや発表のサイクルを用いて定着を図る。また言語習得や異文化コミュニケーションなどに関する基本的知識を習得し、実際に授業において活用できるようになる。授業外学習でHi, FriendsとWe Canの内容を理解し、課題を提出する。
授業の到達目標	小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語の聞く力、話す力（やり取り・発表）、読む力、書く力を、授業場面を意識しながら身に付ける。また小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）、第二言語習得の基本的な理論、児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）の収集法や活用法、異文化理解の理論などについて理解する。

授業計画		担当者
第1回	目標設定とCan-Doリストの作成	生田
第2回	英語の基本的な知識（音声、語彙）	生田
第3回	英語の基本的な知識（文構造、文法、正著等）	生田
第4回	授業実践に必要な聞く力、話す力	生田
第5回	授業実践に必要な読む力、書く力	生田
第6回	児童と言語習得理論	生田
第7回	言語習得の順序	生田
第8回	言語習得理論を活かした授業計画	生田
第9回	英語のゲーム等の収集と活用法	生田
第10回	英語ゲームを用いた活動	生田
第11回	英語の絵本、歌、詩等の収集と活用法	生田
第12回	英語絵本を用いた活動	生田
第13回	異文化理解の基礎的知識	生田
第14回	授業への文化的アプローチ	生田
第15回	授業の振り返りとCan-Doリストを用いた自己評価	生田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	外国語の教科書に用いられる英語表現について学習をする。また外国語に関する各種の事前課題に取り組む。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	外国語に関する事後課題に取り組む。授業内容をふりかえり、外国語に関する知識を整理する。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	コメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。
オフィスアワー	金曜日　14:40～16:10 研究室（西館408号室）

テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』 東洋館出版社 2018 201円 (ISBN:978-4-304-05168-5) 『Let's Try 1』 文部科学省　東京書籍　2018　251円 (ISBN:978-4-487-25870-3) 『Let's Try 2』 文部科学省　東京書籍　2018　251円 (ISBN:978-4-487-25871-0) 『New Horizon Elemenrary Course 5』 東京書籍　2020　金額未定　ISBN未定 『New Horizon Elemenrary Course 6』 東京書籍　2020　金額未定　ISBN未定
参考文献等	小学校学習指導要領平成29年告示解説　外国語活動・外国語編　開隆堂　2018　128円 (ISBN：978-4304051685)
成績評価基準	外国語活動、外国語科目に関する基礎的な知識を習得すること。
成績評価の方法	定期試験（50%）、毎時間ごとの課題（50%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	理科指導法	科目ナンバー	J小1325
担当者	横峯　孝昭		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	学習指導要領に示された各学年の目標・内容。指導上の留意点、評価の方法を学ぶ。また、学習指導案の作成及び模擬授業を通して実践力を高める。
授業の到達目標	1．小学校理科の教育目標、それぞれの区分における育てるべき資質・能力を理解することができる。 2．見通しを持った観察や実験を行う段階で、児童の学習への構造化の一貫性を考慮した授業内容について理解する。 3．模擬授業を通して授業改善の視点について理解する。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（小学校理科の全体目標）	横峯
第2回	小学校の各学年の目標（小学校理科教科書を用いて）	横峯
第3回	小学校理科の区分（A区分、B区分の取り扱い）	横峯
第4回	学習指導案の作成について	横峯
第5回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例　物理編	横峯
第6回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例　化学編	横峯
第7回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例　生物編	横峯
第8回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた教材例　地学編	横峯
第9回	小学校理科の導入について（提示）	横峯
第10回	小学校理科の導入について（考察）	横峯
第11回	第3学年の内容の模擬授業の実施	横峯
第12回	第4学年の内容の模擬授業の実施	横峯
第13回	第5学年の内容の模擬授業の実施	横峯
第14回	第6学年の内容の模擬授業の実施	横峯
第15回	総括(中学校理科への接続について)	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	小学校「理科」の教科書及び学習指導要領に目を通し、内容を振り返ってもらいたい。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義毎に配布する資料に目を通し、内容理解に努めてほしい。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室（西館401号室）

テキスト	『小学校学習指導要領』（平成29年3月公示　文部科学省） 『小学校学習指導要領解説　理科編』（平成29年6月　文部科学省）
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	授業中に配布した資料内容をふまえた指導案作成ができているか
成績評価の方法	最終レポート課題　小学校理科学習指導案の作成（100%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	生活科指導法	科目ナンバー	J小1426
担当者	松﨑　康弘		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、生活科の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は模擬授業の作成・実施・討論・振り返りをとおして、生活科の実践力を高める。
授業の到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション（本授業の目的説明、学生の生活科教育体験の振り返り。）	松﨑
第2回	「学校、家庭及び地域の生活に関わること」の目標及び内容と指導上の留意点	松﨑
第3回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の目標及び内容と指導上の留意点（指導要領(4)～(6)の内容）	松﨑
第4回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の目標及び内容と指導上の留意点（指導要領(7)～(8)の内容）	松﨑
第5回	「自分自身を見つめること」の目標及び内容と指導上の留意点	松﨑
第6回	生活科の学習評価の考え方	松﨑
第7回	背景となる心理学や人文・社会・自然諸科学を踏まえた教材研究の在り方	松﨑
第8回	子どもや学校、地域の実態を視野に入れた授業設計	松﨑
第9回	生活科における情報機器及び教材の効果的な活用	松﨑
第10回	模擬授業テーマに向けた授業設計及び学習指導案の作成	松﨑
第11回	「学校、家庭及び地域の生活に関わること」の模擬授業の実施と振り返り	松﨑
第12回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の模擬授業の実施と振り返り①（主に指導要領（4）～（6）の内容）	松﨑
第13回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の模擬授業の実施と振り返り②（主に指導要領（7）・（8）の内容）	松﨑
第14回	「自分自身を見つめること」の模擬授業の実施と振り返り	松﨑
第15回	生活科教育の全体目標を踏まえた総括	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導要領解説の該当部分を読んでおくこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験に向けて総復習を行うこと。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室）

テキスト	『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　生活編』 文部科学省　東洋館出版社　2018年　134円（税抜き）（ISBN:978-4-491-03464-5）
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育10　初等生活科教育』 片平克弘・唐木清志編著　ミネルヴァ書房　２０１８年　ほか
成績評価基準	・生活科の目標や内容を理解している。 ・生活科の授業設計及び実践をできる基礎的な能力を有している。
成績評価の方法	定期試験（100%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	家庭科指導法	科目ナンバー	J小1429
担当者	大倉　洋代		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	家庭科の独自性を踏まえ、総合的性格を持つ「生活」を対象とする教科のため、「課題を解決するために工夫し創造できる能力」と「実践的態度」の育成を重視する。さらに他教科との学習状況を十分把握して、関連付けながら学習を進める。
授業の到達目標	1. 家庭科教育の変遷を辿り、時代による家庭科教育の内容や特徴を理解する。 2. 児童の生活をより良くしようとする実践的な態度を育てるための指導力を育成する。 3. 生活を科学的にみつめる生活知と科学知を育成する。 4. 家族や地域社会の人々と共生できる人間像を養う。 5. 教師としての基本的資質，使命感，教育的情熱を育成する。

授業計画		担当者
第1回	学校家庭科の歴史的変遷（男女共に学ぶ教科としての展開まで）	大倉
第2回	小学校家庭科の特徴（児童の発達段階と関連して）	大倉
第3回	小学校家庭科の学習指導要領	大倉
第4回	小学校家庭科の指導案作成について指導案の書き方	大倉
第5回	小学校家庭科の指導内容1(家庭生活と家族で家族をどのように教えるか）	大倉
第6回	小学校家庭科の指導内容2(身近な消費生活と環境において目指す持続可能な社会とは）	大倉
第7回	小学校家庭科の指導方法（児童の活動を主体とした授業展開及びICTの活用）	大倉
第8回	指導方法（生活に必要な知識と技能の定着について）	大倉
第9回	小学校家庭科の指導案作成教材研究の方法（教材研究のための資料収集）	大倉
第10回	模擬授業1（日常の食事と調理の基礎を事例に）	大倉
第11回	模擬授業2（快適な衣服と住まい作りを事例に）	大倉
第12回	小学校家庭科の評価（真正な教科を行うために、自己評価の活用）	大倉
第13回	授業改善の方法（反省的に実践することについてカリキュラム評価，授業評価の視点から）	大倉
第14回	家庭科をとりまく課題(食育、金銭教育、環境教育との関連など）	大倉
第15回	まとめ・小学校家庭科を教えるために他の教科との関連、体験的な活動の重要性について理解	大倉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	自分と家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業と生活の結合、理論と実践の統一、具体性の原理、わかりやすさの原理、知識・能力の定着化の原理など、授業改善の視点として参考にする。
質問・相談方法	個人指導の実施
オフィスアワー	金曜日　16:15～18:10　非常勤講師室及び講義室（本館402号室）

テキスト	『小学校指導要領解説　家庭編』 文部科学省　東洋館出版社　2018年　（ISBN-13: 978-4491034669） 『わたしたちの家庭科　小学校5・6』 開隆堂　（ISBN-13: 978-4304080647）
参考文献等	『小学校家庭科の指導』 中間美佐子・多々納道子著　　建帛社　　（ISBN-13:978-4767920986）
成績評価基準	実践的・体験的な学習活動で「知識・理解」、「関心・意欲・態度」、「相違・工夫」等の観点を見取ることにより、学習への関心の高まりや思考の深まりができたと理解し、評価において6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	定期試験60分（40%）、毎時間の課題レポート（40%）、授業中の討議，発表への参加態度等（20%）による総合評価
GPA基準	
備考	

科目名	体育科指導法	科目ナンバー	J小1430
担当者	中島　友樹		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校体育授業を行う上での基礎となる理論に裏付けられた実践を通して、体育科の学習指導の在り方について自らの課題を持ち教師としての資質向上を目指す。また、体育科教育の学問的性格及び体育科の目標論、内容論、方法論、評価論などについて概括的理解を目指す。
授業の到達目標	1. 学習指導要領における体育科の目標及び内容並びに全体構造を理解している。 2. 体育の基礎理論及び体育科独自の教師像を理解することができる。 3. 学習指導要領解説体育編に示された運動領域について理解することができる。 4. 各運動領域の内容及び機能的特性・構造的特性・効果的特性を理解することができる。 5. 体育の授業づくりの視点を明確にし児童の実態に即した単元計画を立案し、指導案の作成ができる。 6. 模擬授業を行い自らの実践を省察することができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション・体育科教育で学ぶこと	中島
第2回	学校体育の史的変遷	中島
第3回	体育科の目標論及び内容論	中島
第4回	体育科の学習形態論と学習過程論	中島
第5回	体育科の評価論	中島
第6回	体育科教師に求められる運動観察の観点	中島
第7回	体育科の内容論及び運動の特性	中島
第8回	体育におけるカリキュラム編成と授業マネジメント	中島
第9回	体育授業における教材及び教具について（ICTの活用を含む）	中島
第10回	体育科の指導案づくりの基礎知識	中島
第11回	模擬授業と振り返り①：体つくり運動系	中島
第12回	模擬授業と振り返り②：器械運動系・表現運動系	中島
第13回	模擬授業と振り返り③：陸上運動系・ボール運動系（ベースボール型）	中島
第14回	模擬授業と振り返り④：ボール運動系（ゴール型）	中島
第15回	模擬授業と振り返り⑤：ボール運動系（ネット型）	中島

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考資料等を熟読する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義内容を振り返る	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応
オフィスアワー	火曜日　12:05～12:30 講義室（405号室）

テキスト	小学校学習指導要領解説　体育編　（平成29年6月　文部科学省） 新版　体育科教育学入門（高橋健夫編著、大修館書店）
参考文献等	『誰もがプレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり』 鈴木直樹他著　教育出版 1,800円（税抜き）（ISBN：978-4-316-80232-9）
.	体育科の目標及び内容を理解し、体育の基礎理論及び体育科独自の教師像を理解することができる。 授業づくりの視点を明確にした単元計画を立案し、指導案の作成及び模擬授業で自らの実践を省察することができる。
成績評価の方法	定期試験（80%）、授業途中のレポート（20%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	外国語指導法	科目ナンバー	J小1431
担当者	生田　和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校の外国語教育の背景、小中連携、外国語の指導環境などについて理解を深めた上で、それらの知識を活かした授業観察や授業体験から指導技術を学び、模擬授業や振り返りを通して授業造りの知識・技術を習得する。また授業内の短時間学習と授業外課題でクラスルームイングリッシュを習得する。
授業の到達目標	小学校における外国語教育に係る背景知識・主教材、 小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。また児童への語りかけ方、児童の発話の引き出し方、文字言語の出合わせ方など、実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。最終的には教材研究、指導案作成、ICTの活用、学習状況の評価などを踏まえた模擬授業とふり返りを通し、実際の授業作りに必要な知識・技術を身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	ミニ模擬授業とふり返り	生田
第2回	授業観察と他教科との連携	生田
第3回	授業体験とICT活用	生田
第4回	小学校外国語の授業に必要な技能と目標設定	生田
第5回	外国語教育の背景と概要	生田
第6回	指導環境、児童、学校などの多様性と事例紹介	生田
第7回	小中高の外国語および小中連携	生田
第8回	チームティーチングと学習評価	生田
第9回	主教材と教材研究	生田
第10回	学習目標の設定と指導計画作り	生田
第11回	発話とやり取りの工夫	生田
第12回	外国語活動の模擬授業とふり返り	生田
第13回	書くことへの指導	生田
第14回	外国語科目の模擬授業とふり返り	生田
第15回	授業の振り返りとCan-Doリストを用いた自己評価	生田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	外国語の教科書に用いられる英語表現について学習をする。また外国語に関する各種の事前課題に取り組む。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	外国語に関する事後課題に取り組む。授業内容をふりかえり、外国語に関する知識を整理する。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	コメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。
オフィスアワー	金曜日　14:40～16:10 研究室（西館408号室）

テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　外国語活動・外国語編』開隆堂 2018 128円 (ISBN:978-4-304-05168-5) 『Let's Try 1』 文部科学省　東京書籍　2018　251円 (ISBN:978-4-487-25870-3) 『Let's Try 2』 文部科学省　東京書籍　2018　251円 (ISBN: 978-4-487-25871-0) 『New Horizon Elemenrary Course 5』 東京書籍　2020　金額未定　ISBN未定 『New Horizon Elemenrary Course 6』 東京書籍　2020　金額未定　ISBN未定
参考文献等	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省） 小学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省） 小学校学習指導要領解説　外国語編　（平成29年6月　文部科学省）
成績評価基準	外国語を教えるための基礎的な知識を習得し、実際に模擬授業を通して外国語の授業を実施し、振り返りができること。
成績評価の方法	最終レポート（50%）、毎時間ごとの課題（50%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	幼児と人間関係	科目ナンバー	J共1312
担当者	本田　和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	1. 乳幼児をとりまく現代的問題とその背景を説明する。 2. 人間関係の発達および社会性の発達について心理学的な理論を説明する。
授業の到達目標	1. 乳幼児期の重要性を理解するとともに、現代の乳幼児の人間関係に関わる諸問題を理解し、それに対する幼稚園・保育所・認定こども園の役割について説明できる 2. 乳幼児期の大人との関係性及び仲間関係の重要性について説明できる 3. 自己の発達とともに、社会性の発達を促す仲間関係の影響について説明できる 4. 家族や地域との関わりにおける人間関係の発達とその意味を説明できる なお授業では、課題の達成のために、討議、グループワーク、発表などの活動を取り入れ、情報機器による情報検索や保育での活用方法を学ぶ

授業計画		担当者
第1回	領域「人間関係」のねらいと内容について理解する	本田
第2回	人とのかかわりから見る乳幼児期の発達について理解する	本田
第3回	遊びの中の人とのかかわりの育ちについて理解する	本田
第4回	人とのかかわりを支える保育者の役割について理解する	本田
第5回	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」について理解する	本田
第6回	インリアル・アプローチを通して「ちょっと気になる子ども」の具体的なかかわりについて理解する	本田
第7回	人とのかかわりを支え広げる実践について理解する	本田
第8回	領域「人間関係」における今日的課題について理解する	本田
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	特別支援学校幼稚部での実務経験を活かし、幼児期特有の人間関係の発達等について教授する		
事前学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	水曜日16:30～18:00　研究室（西館311号室）

テキスト	『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』 菊池篤子　みらい　2018年　2、200円（税抜き）（ISBN:978-4-86015-466-0） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省　フレーベル館　2018年　240円（税抜き）（ISBN:978-4577814475） 『保育所保育指針解説』 厚生労働省　フレーベル館　2018年　320円（税抜き）（ISBN:978-4577814482） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府、文部科学省、厚生労働省　フレーベル館　2018年　350円（税抜き）（ISBN:978-4577814499）
参考文献等	特になし
成績評価基準	幼児期の大人との関係性や中間関係の重要性を理解すること 自己の発達とともに社会性の発達を促す仲間関係の影響について理解すること 家族や地域との関わりにおける人間関係の発達を理解すること
成績評価の方法	定期試験（80%）、ミニレポート提出及び授業参加態度（20%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	幼児と環境	科目ナンバー	J共1313
担当者	横峯　孝昭		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	主に保育内容（環境）の理論を行うことができるように実践力を高める。とくに実際の環境を見ながら自ら幼児の環境について考えることができるようにする。
授業の到達目標	保育内容（環境）において一般的な幼児の育ちの姿、保育者の果たすべき役目について学んだことを踏まえて、幼児期の環境として保育者が考えなければならないことを想定し実践できるようになる。また、保育者として現代の幼児の取り巻く環境としての問題点について説明することができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（保育内容（環境）で学んだこと））	横峯
第2回	現代社会の中における幼児の環境とその課題について	横峯
第3回	幼児に身近ないきもの（動物、植物）の栽培・飼育方法としての事例と実際	横峯
第4回	身近な自然物を用いた制作活動（春・夏）	横峯
第5回	身近な自然物を用いた制作活動（秋・冬）	横峯
第6回	大学近辺に存在する、幼児にとって身近な標識・文字	横峯
第7回	大学近辺に存在する地域施設とその中における幼児の体験の想定	横峯
第8回	現代社会の中における幼児の環境とその課題について考察する	横峯
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	講義を参考に関連する絵本を図書館などで探して読むこと。	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義を踏まえて教材研究等を行ってもらいたい	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室（西館401号室）

テキスト	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示　文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月公示　厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示　文部科学省、内閣府、厚生労働省）
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	レポート課題の内容が講義内容に則したものになっているか
成績評価の方法	毎回授業後に実施するレポート課題（100%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	保育内容総論	科目ナンバー	J共1421
担当者	丸田　愛子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免・保育士証		

授業の概要	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領を概説し、子どもの発達を捉える。近年の教育・保育実践の動向を踏まえた上で、各領域の特性を考慮した保育の方法の工夫について明らかにする。情報機器等を用いた保育実践を示し、保育指導計画案の作成、実践、評価、改善について講義する。これらの学習をとおして、教育・保育構想の向上に努めることができるようにする。
授業の到達目標	1. 子どもの発達の特性を保育内容の観点から捉え、保育実践の動向を踏まえた指導法を構築できる 2. 実践的な活動を通して、教育・保育指導計画案作成による構造の理解及び評価、改善について探求できる 3. 情報機器及び教材を活用した教育・保育の実践を工夫することができる

授業計画		担当者
第1回	保育施設の目的及び保育の基本的な考え方について学ぶ	丸田
第2回	指針と要領をもとに、資質能力及び保育のねらいと内容を整理する	丸田
第3回	乳児保育、1, 2歳児の保育、3, 4, 5歳児の保育の内容について整理する	丸田
第4回	教育課程及び全体的な計画の役割について学習する	丸田
第5回	保育施設におけるカリキュラム・マネジメント及び小学校への接続を理解し、保育の質の向上を捉える	丸田
第6回	特別な配慮を必要とする乳幼児の就学への接続を踏まえ、一人ひとりに応じた対応を学ぶ	丸田
第7回	保育の健康及び安全について理解する	丸田
第8回	長期指導計画及び短期指導計画について学習する	丸田
第9回	教育・保育実習の概要をまとめ、実習記録と観察記録について学習する	丸田
第10回	各領域の実践の動向を調べ、情報機器及び教材を活用した実践を学び、保育指導案作成に活かす	丸田
第11回	情報機器及び教材を活用した実践をまとめ、保育計画（指導案）の記載事項とねらいの書き方を学ぶ	丸田
第12回	保育計画（指導案）の中心的活動及び日課と保育者の援助、環境構成の書き方を学ぶ	丸田
第13回	情報機器及び教材を活用し、保育計画（指導案）を立案に取り組む	丸田
第14回	保育計画に基づき模擬保育をし実施し、主体的・対話的な深い学びを実現する	丸田
第15回	模擬保育の体験を学びの共有を意識しながら自己評価及び改善しまとめる	丸田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	幼稚園教諭・保育園長の実務経験を活かし、保育実践を明らかにし、保育の方法の工夫について教授する。		
事前学習	参考資料等を熟読する 配布資料を整理する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎授業後にはレポートを提出すること	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で課題の要点に触れる。個別に指導添削をする。
質問・相談方法	授業前後の時間及びオフィスアワーに質問・相談に応じる
オフィスアワー	火曜日　14：40～17:55　研究室（西館403号室）

テキスト	『保育の原理・内容・実践』 無藤　隆編　ミネルヴァ書房　2014 『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示　文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示　文部科学省、内閣府、厚生労働省） 『保育所保育指針』（平成29年3月公示　厚生労働省）
参考文献等	0～6歳子どもの発達と保育の本（河原紀子監修、2011、 学研プラス） 鹿児島女子短期大学児童教育学科教育実習の手引 実習指導案・実習日誌・附属幼稚園教育課程・配布資料
成績評価基準	教育・保育の指導法、指導計画立案を理解し、教育・保育の実践を工夫する
成績評価の方法	レポート等の提出課題の達成（80%）、授業中の討議・発表への参加（20%）による総合評価とする
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	保育内容（健康）の指導法	科目ナンバー	J共1316
担当者	大村　一光		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	領域「健康」での学びや、幼稚園教育要領に示す5領域「健康」の位置づけについて再確認し、子どもの発育や、運動、遊びを通しての学習の重要性を理解する。その際、これまで実施してきた教育実習での学びとともに、学生間のグループ学習や情報交換を通して、より実践的な保育指導のあり方を学ぶ。
授業の到達目標	幼稚園教育要領に示された健康領域のねらい及び内容について理解を深めることで、乳幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、乳幼児の発達について、主体的学びができるようにするとともに、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けられるようにする。

授業計画		担当者
第1回	領域「健康」のねらいの確認と保育内容「健康」の内容	大村
第2回	子どもの健康問題に関する課題（実習からみえる体の発達、生活習慣の気づき）	大村
第3回	子どもの健康問題に関する課題（実習からみえる運動発達と基礎的運動能力の気づき）	大村
第4回	子どもの健康問題に関する課題（まとめと関連サイト紹介及び活用の仕方）	大村
第5回	子どもの運動能力の発達と小学校体育との関連性	大村
第6回	運動の発達とその評価（実習での観察を参考にして）	大村
第7回	保育計画における健康の留意点（春、夏編）	大村
第8回	保育計画における健康の留意点（秋、冬編）	大村
第9回	ICT（ビデオ視聴など）を用いた「健康」の捉え方と指導案作成	大村
第10回	小型遊具を中心としたグループ学習（模擬保育と振り返り）	大村
第11回	大型遊具を中心としたグループ学習（模擬保育と振り返り）	大村
第12回	素材遊びを中心としたグループ学習（模擬保育と振り返り）	大村
第13回	伝承遊びを中心としたグループ学習（模擬保育と振り返り）	大村
第14回	安全対策（リスクとハザードについて実習園をもとに考察）	大村
第15回	保育指導案にみる「健康」教育のまとめ（各自の実習時の指導案をもとにまとめ）	大村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	これまでの実習のふり返りから健康領域について整理する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	健康のとらえ方や、グループ学習から保育の構想を再考する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	必要に応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後、オフィスアワーで対応する
オフィスアワー	水曜日～金曜日　12:10～12:55　研究室（体育館101号室）

テキスト	『すこやかな子どもの心と体を育む第2版 』 井上勝子編 建帛社 2010 2,350円 （ISBN10：4767932688）
参考文献等	幼稚園教育要領解説（平成29年3月　文部科学省） 保育所保育指針ハンドブック（汐見稔幸監修、Gakken） 幼保連携型認定こども園教育・ほいく要領ハンドブック（無藤隆監修、Gakken）
成績評価基準	子どもの健康問題に関する現代的課題及び教育現場の実情を踏まえ、発展的思考ができるようにする
成績評価の方法	定期試験（60%）、授業中のディスカッション内容（40%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	保育内容（人間関係）の指導法	科目ナンバー	J共1417
担当者	本田　和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免・保育士証		

授業の概要	1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、各内容を乳幼児が身に付けるための、指導・援助について説明する。 2. 領域「人間関係」のねらいと内容と、育みたい資質能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を説明する。 3. 子どもの発達段階に沿った指導をするための具体的な保育を想定した、観察記録や指導案の作成の仕方を講義する。 なお授業では、課題の達成のために、討議、グループワーク、発表などの活動を取り入れ、情報機器による情報検索や保育での活用方法を講義する。
授業の到達目標	1. 領域「人間関係」のねらい及び内容を説明できる 2. 幼児の発達に即して、領域「人間関係」の内容の取扱いに基づき、具体的な場面を想定した保育を行う力を身に付ける 3. 育みたい資質能力について理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考慮した保育を説明できる

授業計画		担当者
第1回	育みたい資質能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と「人間関係」を関係づけて理解する	本田
第2回	領域「人間関係」のねらいと内容とについて全体構造を理解する	本田
第3回	自律性と自立の発達を促す、指導法とその留意点を理解する	本田
第4回	友達とかかわりを深め、共感性の発達や他者理解を促す指導やその留意点を理解する	本田
第5回	いざこざや葛藤の指導と協働的遊びを促す指導とその留意点を理解する	本田
第6回	道徳性の発達を促す指導やその留意点を理解する	本田
第7回	公共性や規則きまりの大切さに気付き、守ろうとする態度を育てる指導法や留意点を理解する	本田
第8回	地域の人々に親しみを持つための指導法やその留意点について理解する。	本田
第9回	小学校との接続を進めるための保育案が作成できる	本田
第10回	教材の研究を行い保育に生かすことができる	本田
第11回	領域「人間関係」に関わる指導案の構造を理解し、作成することができる	本田
第12回	模擬保育やロールプレイなどを通して、保育の課題と改善の方法を身に付ける	本田
第13回	保育現場における情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる	本田
第14回	保育実践の資料を読み、現代的な問題とその動向と研究について、自分の保育に生かすことができる	本田
第15回	「人間関係」に関する保育の評価の考え方を理解する	本田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	特別支援学校幼稚部での実務経験を活かし、幼児期特有の人間関係の発達等について教授する。		
事前学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	水曜日　16:30～18:00　研究室（西館311号室）

テキスト	『新版　実践保育内容シリーズ２　人間関係』 谷田貝監修　一藝社　2018年　2,000円（税抜き）（ISBN:978-4-86359-157-8） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省　フレーベル館　2018年　240円（税抜き）（ISBN:978-4577814475） 『保育所保育指針解説』 厚生労働省　フレーベル館　2018年　320円（税抜き）（ISBN:978-4577814482） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府、文部科学省、厚生労働省　フレーベル館　2018年　350円（税抜き）（ISBN:978-4577814499）
参考文献等	特になし
成績評価基準	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解すること 幼児の発達に即して、具体的な保育の在り方について理解すること 育みたい資質能力について理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考慮した保育を理解すること
成績評価の方法	定期試験（80%）、ミニレポート提出及び授業参加態度（20%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	教育課程･保育計画の意義と編成･評価	科目ナンバー	J共3307
担当者	丸田　愛子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免・幼教免・保育士証		

授業の概要	教育課程と保育課程の目的及び社会的背景を踏まえた変遷を捉え、編成の基本的な考え方を学ぶ。教科や領域を超えた学校全体の教育課程の重要性を理解し、カリキュラム評価の基本的な考え方を習得する。
授業の到達目標	1、教育課程と保育計画、各指導計画の意義、種類、構成など基本的な知識を習得する 2. 乳幼児期から児童期に関する長期短期的な指導計画を立案する力を養う 3、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性を理解する

授業計画		担当者
第1回	カリキュラムの基礎理論	丸田
第2回	教育課程と保育の全体的な計画の意義	丸田
第3回	学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷と教育・保育の社会背景や思想	丸田
第4回	学習指導要領にみる学校教育における計画の必要性	丸田
第5回	幼稚園教育要領にみる幼稚園教育における計画の必要性	丸田
第6回	保育所保育指針にみる保育所保育における計画の必要性	丸田
第7回	サンプル分析を通した教育課程の編成	丸田
第8回	サンプル分析を通した保育の全体的な計画	丸田
第9回	教育・保育における教育課程・保育の全体的な計画の評価と改善	丸田
第10回	長期・短期的な教育・保育計画の作成	丸田
第11回	特別な配慮を必要とする乳幼児・児童についての支援計画	丸田
第12回	教育課程をもとにICTを活用した教育の計画について作成と検討	丸田
第13回	保育の全体的な計画をもとにICTを活用した保育の計画について作成と検討	丸田
第14回	学校教育及び幼稚園教育における教育課程のカリキュラム・マネジメントの意義と重要性	丸田
第15回	学校教育課程及び保育の全体的な計画のカリキュラム・マネジメントをすることの意義	丸田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	幼稚園教諭・保育園長の実務経験を活かし、教育課程と全体的な保育計画、各種指導計画について具体例を示し、カリキュラム・マネジメントの実際を教授する。		
事前学習	・配布プリントは、資料として整理し学習内容を予習する ・各保育施設の実習における保育記録及び指導計画案について課題点をまとめる	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業後はまとめシートを提出する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で要点を解説する。 指導計画立案及び保育記録の作成は、個別に添削指導をする。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する
オフィスアワー	火曜日　14:40～17:55　研究室（西館403号室）

テキスト	『小学校学習指導要領』(平成29年3月　文部科学省)、『保育所保育指針』(平成29年3月公示　厚生労働省)、『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示　文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示　文部科学省、内閣府、厚生労働省）、『保育の原理・内容・実践』（無藤　隆編、ミネルヴァ書房、2014）
参考文献等	『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科（編） 『教育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科（編）
成績評価基準	教育課程と保育計画、各指導計画の基本的な知識を習得し、カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育・保育の計画を立案できる
成績評価の方法	定期試験（60%）、第9回と第12回の課題提出状況（40%）　による総合評価
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	道徳教育の指導法	科目ナンバー	J小1332
担当者	村若　修		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半では、学習指導要領の理解と学習指導案の作成、模擬授業の実施を通じて、道徳教育の指導力を養成し、実習に備える。後半では、日本の道徳教育の歴史や課題、道徳性発達の理論、道徳理論（倫理学）を学び、道徳性と道徳教育の本質について考え、認識を深める。
授業の到達目標	学校における道徳教育の目標、そのために必要な資質と能力を理解し、学習指導要領に示された内容と指導法について実践能力を培うとともに、教育史や倫理学、心理学の知識を補うことにより、道徳性と道徳教育の本質について考え、認識を深める。

授業計画		担当者
第1回	「特別の教科　道徳」の目標及び内容	村若
第2回	学校の教育活動全体を通じた道徳教育とその指導計画	村若
第3回	道徳科の指導方法と教材の多様性（情報機器の活用を含む）	村若
第4回	道徳科の学習指導案作成・道徳科の評価	村若
第5回	模擬授業と振り返り（主として自分自身に関すること）	村若
第6回	模擬授業と振り返り（主として人との関わりに関すること）	村若
第7回	模擬授業と振り返り（主として集団や社会との関わりに関すること）	村若
第8回	模擬授業と振り返り（主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること）	村若
第9回	小学校教育実習の振り返り（実習校での道徳教育の取り組みについて）	村若
第10回	日本の道徳教育の歴史	村若
第11回	現代の道徳教育の課題（いじめや情報モラルを中心に）	村若
第12回	子どもの道徳性の発達	村若
第13回	倫理学と道徳教育（カント倫理学と功利主義を中心に）	村若
第14回	倫理学と道徳教育（徳倫理学とケア倫理学を中心に）	村若
第15回	「道徳教育」の本質再考	村若

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	模擬授業の準備等、事前課題	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	振り返りレポートの作成等、事後課題	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	ミニッツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。（1）授業時のミニッツペーパーに質問事項を記入する。（2）授業後に質問をする。（3）オフィスアワーを利用する。
オフィスアワー	火曜日　15:00～17:00　研究室（西館410号室）

テキスト	『小学校学習指導要領解説』 特別の教科道徳編 （平成29年6月　文部科学省）
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること
成績評価の方法	定期試験（80%）、模擬授業の発表内容及び第5回から第8回の振り返りレポート（20%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	総合的な学習の時間の指導法	科目ナンバー	J小1433
担当者	松﨑　康弘		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は指導計画の作成・討論・振り返りをとおして、総合的な学習の時間の単元を構成する力を高める。
授業の到達目標	総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション（本授業の目的についての説明、小学校等の実践の振り返り）	松﨑
第2回	総合的な学習の時間の目標と意義	松﨑
第3回	総合的な学習の時間を踏まえたカリキュラム・マネジメント	松﨑
第4回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（1）（横断的・総合的な課題）	松﨑
第5回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（2）（地域や学校の特色に応じた課題）	松﨑
第6回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（3）（児童の興味・関心に基づく課題）	松﨑
第7回	総合的な学習の時間における体験活動の意義	松﨑
第8回	総合的な学習の時間におけるICTの活用	松﨑
第9回	総合的な学習の時間における施設等の活用	松﨑
第10回	探究的な学習の過程	松﨑
第11回	総合的な学習の時間の評価	松﨑
第12回	総合的な学習の時間の年間指導計画の事例	松﨑
第13回	総合的な学習の時間の単元計画の作成	松﨑
第14回	単元計画の発表と討論	松﨑
第15回	これからの総合的な学習の時間の在り方	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導要領解説の指定部分を読んでおく 図書館等で参考文献を探し、単元計画作成に備える	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験に向けて総復習を行う	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室）

テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編』 文部科学省　東洋館出版社 2018年　126円（税抜き）（ISBN:978-4-491-03468-3）
参考文献等	特になし
成績評価基準	総合的な学習の時間の目標や内容を理解している。 指導計画作成、実践のための基礎的な能力を有している。
成績評価の方法	定期試験（100%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	特別活動の指導法	科目ナンバー	J小1334
担当者	山元　有一		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	何より小学校における特別活動の内容、その目的を概略し、特に学級活動について具体的な授業実践について考えていく。
授業の到達目標	特別活動は「なすことによって学ぶ」を前提としており、学級や学校の生活作りの共同作業を通して、より個性的でより社会的な成長を促進するものである。特に求められているのは、コミュニケーションの力、社会への積極的な関与の意思、生涯にわたる子どもの自己実現の意欲である。そのためには学生自身がそうした者にあらかじめなっていなければならない。本講義では以上のことを、指導の在り方や方法を含めた特別活動の具体的な内容に沿って進めていく。

授業計画		担当者
第1回	特別活動の意義、目的――学校における生活作りとしての特活	山元
第2回	特別活動の内容――小中の学習指導要領を用いて	山元
第3回	学級活動（話合い活動、係活動）	山元
第4回	学級活動（図書館、食育）――教員のチーム化も踏まえて	山元
第5回	児童会活動――学校における自治組織の在り方	山元
第6回	クラブ活動――学外にまで達する異年齢交流の観点も含めて	山元
第7回	学校行事――5種類の学校行事とその意義	山元
第8回	特別活動と他の教科との関連性――特別教科道徳との関連性を踏まえて	山元
第9回	特別活動の具体的な指導法（学級活動）――合意形成はいかにして可能か？	山元
第10回	特別活動の具体的な指導法（学級活動を除く）――他の教科の指導法との関連で	山元
第11回	特別活動での子どもたちの取組みに教員はいかに関わり、それをいかに評価するか？	山元
第12回	個性の伸長と集団の一員の自覚――社会性の捉え直し、民主主義の理解	山元
第13回	特別活動と家庭・地域（郷土）・社会――外部にフィードバックされる特活	山元
第14回	日本人としての自覚と特別活動	山元
第15回	特別活動の新しい実践的課題について――国際的視点から見て	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。			学習合計時間(h)	20時間
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。			学習合計時間(h)	40時間

課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く 15:00～17:00（西館4階406号室） 要事前連絡（連絡方法は初回の講義で伝える）

テキスト	『小学校学習指導要領解説　特別活動編』（平成29年6月　文部科学省）
参考文献等	特になし
成績評価基準	講義期間中に小学校教育実習があるので、それを踏まえること
成績評価の方法	レポートにより評価する(100%)
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	幼児理解	科目ナンバー	J共1439
担当者	宮里　新之介		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	幼児期の発達に関する知識と臨床心理学をベースに、幼児期に現れる様々な問題行動（つまづきの表れ）への基礎的理解を深める。また事例問題を通して、問題行動を呈している幼児やその保護者にどのように対応するかを根拠に基づいて考えるワークを行う。
授業の到達目標	幼児期のつまづきの表れとしての問題行動について学び、幼児の呈している問題の背景を考え、仮説を立て、幼児及び保護者への対応方法を考える基礎を身につける。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／保育臨床とは	宮里
第2回	現代社会の子どもの育ちと親の傾向	宮里
第3回	幼児期の発達と遊び	宮里
第4回	臨床心理学的視点とは何か	宮里
第5回	観察と記録（個別的視点と集団的視点）	宮里
第6回	子どものつまづきの理解（反社会的行動）	宮里
第7回	子どものつまづきの理解（非社会的行動）	宮里
第8回	子どものつまづきの理解（神経症的行動）	宮里
第9回	子どものつまづきの理解（生活習慣に表れる問題行動）	宮里
第10回	様々なつまづきへの対応を考える（事例の検討：反社会的行動と非社会的行動）	宮里
第11回	様々なつまづきへの対応を考える（事例の検討：神経症的行動と生活習慣上の問題行動）	宮里
第12回	保護者への支援（育児不安と児童虐待）	宮里
第13回	保護者への支援（教育相談：共感的理解と受容・傾聴）	宮里
第14回	現場でぶつかる諸問題	宮里
第15回	全授業を通しての質疑・応答	宮里

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考資料等を熟読する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	前回の授業の理解度をチェックするためのミニテストを実施することがあるので授業の復習を行うこと	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。
オフィスアワー	木曜日　10:35～12:05　研究室（本館312号室）

テキスト	『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育臨床相談』 小田豊他著　北大路書房　2018年　1700円（税別）（ISBN:978-4-7628-2658-0）
参考文献等	特になし
成績評価基準	幼児期のつまづきの表れである〝問題行動〟の背景に、どのような原因が考えられるのか、その基礎的知識に基づいて対応の仕方を考えることができること。
成績評価の方法	定期試験（80%）、毎時間の課題レポート（20%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	教育相談	科目ナンバー	J共1338
担当者	松元　理恵子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証、ピアヘルパー		

授業の概要	子どもの心の問題を理解しどのように対応していけばよいか、自己理解、他者理解を深め、成長をしていくことを支援する教育相談の基礎的な理論と具体的な方法について説明する。また、家庭の教育や地域社会の機能低下等を概観し、教師として子ども、家族、関係者にいかなる教育相談を行えばよいのか、基礎的な知識や理論および技法について学び、発達の状況に応じた相談活動の在り方を身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. 自己理解を深めながら、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動について学ぶ 2. 発達の状況に即しつつ、適切に捉えた個々の心理的特質や教育的課題について説明できる。 3. 支援に必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける

授業計画		担当者
第1回	教育相談の理論と方法（教育相談の意義と課題について学ぶ）	松元
第2回	幼児、児童の行動の意味を理解する（不適応や問題行動について）	松元
第3回	カウンセリングマインドについて（学校での教育相談の具体的すすめ方）	松元
第4回	発達理解と相談・支援1（乳児期・幼児期への対応、保護者に対する教育相談の在り方）	松元
第5回	発達理解と相談・支援2（学童期・思春期への対応、保護者に対する教育相談の在り方）	松元
第6回	いじめに対する教育相談（事例検討）	松元
第7回	不登校・不登園に対する教育相談（事例検討）	松元
第8回	虐待、非行等に対する教育相談（事例検討）	松元
第9回	保護者対応（保護者支援と方針の立て方、「親育ち」のための発達支援）	松元
第10回	特別な支援、配慮が必要な子どもと保護者へのかかわり	松元
第11回	危機に直面した子どもの心のケア（緊急時の対応）	松元
第12回	発達段階にあわせた教育相談の計画の作成（職種や校務分掌に応じた教育相談の目標の立て方と進め方）	松元
第13回	教育相談の具体的技法（受容、傾聴、共感的理解等）	松元
第14回	社会資源の活用（校内体制、関係機関を学ぶ）	松元
第15回	事例検討（子どものシグナルに気づき、アセスメントを学ぶ）	松元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。		
事前学習	次の授業でとりあげるテーマについて、配布されたレジュメをもとに用語等を調べる	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	配布された資料やワークシートをレジュメと照合しながら整理する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際に質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	火曜日・木曜日　12:05～12:55　研究室（西館305号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『子ども理解と援助』 高嶋景子・砂上史子・森上史朗編　ミネルヴァ書房 2011 年　2,200円（税抜）（ISBN：9784623959621） 『絶対役立つ教育相談　学校現場の今に向き合う』 藤田哲也監修　ミネルヴァ書房 2017年　2,200（税抜）（ISBN：9784623081097）
成績評価基準	教育相談に必要な基礎的知識や発達状況に応じた相談活動の在り方を理解すること。
成績評価の方法	定期試験（70%）、講義で出した課題（レポート等）の提出状況（30%）で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	小学校教育実習指導	科目ナンバー	J共2306
担当者	松﨑　康弘、内田　豊海		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	
免許・資格情報	必修：小教免　　選択必修：幼教免		

授業の概要	小学校教育実習の目的・意義や展開について学び、実際にどのようなことを行うかを理解して、実習に臨む意欲を高める。また、既習事項の復習や過去の実習事例の検討を通して、授業参観のポイントの理解や授業づくりに必要な技能の獲得を目指す。学習指導と同じく重要な柱である生活指導等についても理解を図る。さらに、実習に必要な手続きやマナー等についても理解し、実行できるようにする。
授業の到達目標	1. 小学校教育実習の意義を理解し、実習に臨む意欲をもつ 2. 実習に必要な観察力や技能を習得する 3. 実習を振り返り今後に生かそうとする意識をもつ

授業計画		担当者
第1回	小学校教育実習の目的と意義を学ぶ	松﨑・内田
第2回	小学校教育実習の準備（書類作成等）	松﨑
第3回	小学校教育実習の展開（実施内容等）について学ぶ	松﨑
第4回	授業実習に伴う学習指導案の作成について学ぶ	内田
第5回	授業実習における授業方法等について学ぶ	内田
第6回	生活指導等への取り組み方について学ぶ	松﨑
第7回	教育実習生としてのマナー等について学ぶ	松﨑
第8回	事後指導（小学校教育実習を振り返る）	松﨑・内田
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業実習で担当しそうな教科や生徒指導等について既習事項の復習を行う。	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	授業内容を確認する（事前指導） 最終レポートを課すため、実習記録等を見直す（事後指導）	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	松﨑（責任者） 月曜日 14:30～16:20 研究室（西館411号室）

テキスト	鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』（非売品）
参考文献等	『教育技術MOOK 小学校・中学校・高校対応 教育実習まるわかり」 小泉博明ほか 小学館 2007年 ほか
成績評価基準	・実習に必要な基本的な観察力や技能を習得すること。 ・実習を振り返り今後に生かそうとする意識をもつこと。
成績評価の方法	最終レポート（90%） 受講態度（10%）
GPA基準	
備考	・出席を怠ると小学校教育実習に参加できないことがある。

科目名	小学校教育実習	科目ナンバー	J共2305
担当者	松﨑　康弘		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	
免許・資格情報	必修：小教免　　選択必修：幼教免		

授業の概要	小学校で10日間の教育実習を行うことによって、小学校教師の職務や責任等について学び、自分なりの教師観を構築する。具体的には、授業実習・参観を通じて授業に必要な知識・技能を習得する。また、学級活動や休み時間等における児童との活動をとおして、子ども観を構築する。さらに、講話の聴講等をとおして、小学校教育についての理解を深める。なお、実際の授業計画は原則として実習校の計画に従うが、下記の計画の内容が含まれるよう実習校には依頼する。
授業の到達目標	1. 小学校教師の責任ややりがいを理解する 2. 教師の職務に必要な知識や技能を習得する 3. 児童と接する中で子ども観を構築できる

授業計画		担当者
第1回	実習校の教育目標や教育課程について学ぶ	（実習校教員）
第2回	実習校における教師の職務について学ぶ	（実習校教員）
第3回	実習校における児童の実態について学ぶ	（実習校教員）
第4回	実習校における生活指導・安全指導について学ぶ	（実習校教員）
第5回	実習校における保健指導・給食指導について学ぶ	（実習校教員）
第6回	実習校における特別支援教育について学ぶ	（実習校教員）
第7回	配属学級を中心に学級経営について学ぶ	（実習校教員）
第8回	実習校教員の授業技術（ICTの活用を含む）について学ぶ	（実習校教員）
第9回	授業実習に向けて教材研究を行う	（実習校教員）
第10回	授業実習に向けて学習指導案を作成する	（実習校教員）
第11回	評価授業の前に別の授業実習を行う	（実習校教員）
第12回	⑪について改善点を探り、児童にふさわしい授業を考察する	（実習校教員）
第13回	上記の学びを踏まえ評価授業を行う	（実習校教員）
第14回	評価授業の反省会を行い、成果と課題を見つける	（実習校教員）
第15回	教育実習全体を振り返り、小学校教育観を確立する	（実習校教員）

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	「小学校教育実習指導」の内容や実習校からの指示を確認・実行する。	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習記録等の記述を通して実習における学びを振り返る。	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	実習校教員または松﨑が求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	原則として、実習校教員が適宜対応する。 実習期間中、松﨑も毎日１８時以降を目安に電話やメール等による相談を受け付ける。
オフィスアワー	月曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室）

テキスト	鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』（非売品）
参考文献等	・２年次の小学校授業参観で入手する公開研究会学習指導案集 ・実習校で配布される資料
成績評価基準	1. 実習に意欲的に取り組みふさわしい態度で臨むことができた 2・学習指導において、実習生としてふさわしい実践ができた 3. 生活指導等において、実習生としてふさわしい実践ができた 4. 講話等の内容や児童の見取り、課題意識等を実習記録において記述できた
成績評価の方法	実習校が評価授業や実習記録等から上記４観点を用いて総合的に評価した結果に基づき、担当教員としての松﨑が最終評価をする（100%）
GPA基準	
備考	・前年度の実習参加資格審査に合格しないと、小学校教育実習には参加できない。参加要件については学生便覧等で確認しておくこと。 ・小学校教育実習指導を無断欠席等した場合、実習に参加できないことがある。

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ指導	科目ナンバー	J保2208
担当者	井上　周一郎、松﨑　康弘、大村　一光		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	
免許・資格情報	選択必修：幼教免		

授業の概要	2年次に行われる幼稚園教育実習Ⅱにおいての事前・事後指導を行う。1年次の基本実習をベースに各自が実習に向けての意欲や課題意識を高めるとともに、教材研究、指導案作成に新たな観点を加えることができるよう解説する。
授業の到達目標	1．実習の事前事後学習で、幼稚園教諭や保育教諭としての資質・技能を形成する

授業計画		担当者
第1回	実習先へ送るハガキの指導	A
第2回	幼稚園教育実習Ⅱの意義と目的	A
第3回	事前訪問の時期と内容	A
第4回	指導案の書き方	A
第5回	指導案作成の留意点	A
第6回	幼稚園についての復習と現状の把握	A
第7回	実習日誌の書き方と事前のまとめ	A
第8回	事後指導：実習のまとめ	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	配布資料を読み込み、実習に向けての準備につなげること	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	8回目、実習に関するレポートを課すので実習先の内容を復習しておくこと	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	レポートに関しては、求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	井上：金曜日　16:25～17:55　研究室（本館609号室） 松崎：火曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室） 大村：水曜日～金曜日　12:10～55 研究室（体育館101号室）

テキスト	本学作成の『実習の手引き』 配布プリント（幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領など）
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	レポート（100%）ただし幼稚園教育実習Ⅱの成績とも関連づける
GPA基準	
備考	授業計画以外にも追加の補講を行うので、掲示板に注意　A：井上・松崎・大村

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ	科目ナンバー	J幼2307
担当者	井上　周一郎、松﨑　康弘		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	
免許・資格情報	選択必修:幼教免		

授業の概要	基本実習を踏まえ、実習先では以下の発展的内容の習得を目指す。 1. 子どもたちとの遊びや触れ合いを通して子どもを知る 2. クラスの運営を踏まえ、子どもとの関わり方を学ぶ 3. 保育の実践技術・技能を高める 4. 職員間のチームワークを理解する 5. 保育の専門家としての資質を高める 6. 近年の幼稚園を取り巻く状況や社会的な保育ニーズについて理解する
授業の到達目標	実践現場での実習を通して、以下の内容を目的とする。 1. 子ども理解を深める 2. 保育観を形成する 3. 保育技術を高める

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(設置機関、園児数、組構成、設備など)	A
第2回	実習園の教育方針や教育目標を理解する	A
第3回	実習園の保育内容や形態を理解する	A
第4回	実習園の保育のねらいや計画を理解する	A
第5回	配属クラスのデイリープログラムを把握する	A
第6回	観察実習をはじめ、参加実習で保育者の指導・援助に理解を深める	A
第7回	保育参加で実践的技能を高める(3歳児クラス)	A
第8回	保育参加で実践的技能を高める(4歳児クラス)	A
第9回	保育参加で実践的技能を高める(5歳児クラス)	A
第10回	指導計画の作成・実践・評価	A
第11回	職員とのチームワークや地域社会との連携を理解する	A
第12回	保育を取り巻く今日的な課題を理解する(多様化するニーズ、認定こども園)	A
第13回	幼稚園教育および幼稚園教諭についての理解を深める	A
第14回	実習の振り返り	A
第15回	実習のまとめ	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	実習園を定期的に訪問し、必要な打ち合わせをしておくこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実習の課題を整理し、その後の実習に生かすこと	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	実習園担当者が実習生の求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	井上：金曜日　16:30～18:00　研究室（本館609号室） 松崎：火曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室） 大村：水曜日～金曜日　12:10~12:55 研究室（体育館101号室）

テキスト	本学作成の『実習の手引き』、幼稚園教育実習Ⅱ指導で配布するプリント 『幼稚園教育要領』 文部科学省　平成29年3月　251円（ISBN：9784827815634）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府 文部科学省　厚生労働省　　平成29年3月　149円（ISBN：9784577814246）
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	各実習園が本学所定の項目（実習態度など）について評価を行い、それを基に本学が単位認定する（100%）
GPA基準	
備考	・守秘義務を必ず守ること(ブログやツィッターなど一見個人的な場でも発言は控える) ・実習参加資格審査に合格しないと実習に参加できない。要件は学生便覧等で確認すること A：実習園担当者

科目名	保育・教職実践演習	科目ナンバー	J共2401
担当者	松﨑康弘ほか（児童教育学科教員18名）		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	
免許・資格情報	必修：幼教免・保育士証		

授業の概要	実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「保育者の職務内容」「子ども理解」「保育指導力」という教職実践演習に求められるテーマについて、「地域」も意識しながら、教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。また、模擬保育等を実施し、実習での学生自身の経験と照らし合わせることで実践力を高めるとともに、保育者や保育の在り方について考える。さらに、本演習も含めた短大での学びを総括し、自分なりの保育者観・保育観を構築する。
授業の到達目標	1. 講義・討論等をとおして子ども理解や保育理解を深化する 2. 模擬保育等をとおして保育職としての実践力を高める 3. 自分なりの保育者観・保育観を確立できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーションと実習のふりかえり	松﨑
第2回	講義①（保育者の職務内容について学ぶ）	A
第3回	討論①（保育者の職務内容について討論を行う）	B
第4回	講義②（子ども理解について学ぶ）	C
第5回	討論②（子ども理解について討論を行う）	B
第6回	講義③（保育指導力について学ぶ）	D
第7回	討論③（保育指導力について討論を行う）	B
第8回	ロールプレイ（既習事項を用いて役割演技）	B
第9回	模擬保育①（模擬保育の計画づくり）	B
第10回	模擬保育②（模擬保育の教材製作等）	B
第11回	模擬保育③（地域の子どもに対する模擬保育の実行）	B
第12回	模擬保育④（模擬保育の反省的検討）	B
第13回	講義④（保育の意義について学ぶ）	E
第14回	討論④（保育の意義について討論を行う）	B
第15回	総括（演習のふりかえりと保育者観の確立）	B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	講義に基づいた討論や、模擬保育の準備を計画的に行う 履修カルテのを記入する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	討論の結果や模擬保育の成果を自分なりにまとめ、最終レポートに備える。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後や各教員のオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	松﨑（責任者） 月曜日 14:30～16:20 研究室（西館411号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力』 小原敏郎ほか編著 建帛社
成績評価基準	・子ども理解や保育の意義についての理解を深められている。 ・保育者としての基礎的な実践力が高まっている。 ・自分なりの保育者観を確立している。
成績評価の方法	レポート（100%）
GPA基準	
備考	１組 （Ａ＝松﨑、Ｂ＝松﨑・内田、Ｃ＝内田、Ｄ＝内田、Ｅ＝松﨑） ２組 （Ａ＝藤川、Ｂ＝横峯・藤川、Ｃ＝横峯、Ｄ＝藤川、Ｅ＝横峯） ３組 （Ａ＝村若、Ｂ＝村若･宇都･本田･内田、 Ｃ＝本田、Ｄ＝内田、Ｅ＝宇都） ４組 （Ａ＝丸田、Ｂ＝大村･井上・丸田･赤瀬川、Ｃ＝大村、Ｄ＝井上、Ｅ＝赤瀬川） ５組 （Ａ＝松下、Ｂ＝松下･生田･佐藤･金浦、 Ｃ＝生田、Ｄ＝金浦、Ｅ＝佐藤） ６組 （Ａ＝渡邉、Ｂ＝池田･平嶋･中村･渡邉、 Ｃ＝平嶋、Ｄ＝中村、Ｅ＝池田） COC関連科目

科目名	小学校教職実践演習	科目ナンバー	J共2402
担当者	松﨑　康弘･内田　豊海･横峯　孝昭･藤川　和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け（複数）
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「小学校教師の職務内容」「児童理解」「教科の指導力」という教職実践演習に求められるテーマについて、「地域」も意識しながら、教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。また、小学校の公開授業の参観や現職教員による指導を通して、ICT活用も踏まえた授業の在り方や教師の在り方について理解する。さらに、壁新聞製作等の形を通して短大での学びを総括し、自分なりの教師観・教育観を構築する。
授業の到達目標	1. 講義・討論を通して児童や教職の意義等について理解する。 2. 授業参観や現職教員の指導を通して、実践力向上を図る。 3. 自分なりの教師観・教育観を確立できる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	松﨑
第2回	小学校教師の職務内容について講義	松﨑・藤川
第3回	小学校教師の職務内容について討論	A・B
第4回	現職教員による指導（山下小参観に向けて）	松﨑・C
第5回	公開授業参観（山下小学校）	A・B
第6回	公開授業参観の振り返り・討論	A・B
第7回	児童理解について講義	松﨑・横峯
第8回	児童理解について討論	A・B
第9回	教科の指導力について講義	内田・横峯・C
第10回	教科の指導力について討論	A・B
第11回	2年間の学びの振り返り①（壁新聞製作の企画）	A・B
第12回	2年間の学びの振り返り②（壁新聞製作）	A・B
第13回	2年間の学びの振り返り③（壁新聞のプレゼンテーション）	A・B
第14回	教職の意義について講義・討論	A・B
第15回	まとめ（教師観の確立）	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実習をはじめ2年前期までの既習事項を履修カルテ記入等を通して振り返っておく。			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義と討論が連動するので、講義内容を復習しておく。			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	松﨑（責任者） 月曜日 14:40～16:20 研究室（西館411号室）

テキスト	特になし。
参考文献等	『改訂 これからの教師』 谷川彰英ほか編著（松﨑康弘ほか著） 建帛社 2007年 『教育の情報化に関する手引』 文部科学省 2019年(文部科学省ホームページ)ほか
成績評価基準	・児童理解や教職の意義についての理解を深められている。 ・小学校教師としての基礎的な実践力が高まっている。 ・自分なりの教師観を確立している。
成績評価の方法	レポート（90%） 受講態度：討論や壁新聞製作等における積極性等（10%）
GPA基準	
備考	A：松﨑・内田（主に1組を担当） B：横峯・藤川（主に2組を担当） C：ゲストティーチャー 2年次前期及び後期の開始時に履修カルテの記入と担当教員への提出を求める。 原則として、1組と2組が別教室に分かれて討論等を行うが、ゲストティーチャーによる指導等は1・2組合同で行う場合がある。 COC科目

科目名	教師と法	科目ナンバー	J応3309
担当者	池田　哲之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	社会全体の法化現象がすすむなか、いじめへの対応や「特別な教科　道徳」の指導その他教師としての職務は法知識の活用なしに遂行することができなくなっている。本講義では、学校教育（公教育）と法令のかかわりを理解しながら、重要教育法令に関する実際的な運用能力を養ってゆく。
授業の到達目標	1. 現代教育法令の体系を知る。 2. 学校現場と法令の関わりの実際を知る。 3. 教員採用試験に対応しうる法令知識を習得する。

授業計画		担当者
第1回	日本国憲法の基本理念	池田
第2回	教育権と学習権	池田
第3回	旧教育基本法の基本精神	池田
第4回	新教育基本法の骨子	池田
第5回	学校教育法の理解	池田
第6回	学校教育法施行令・施行規則の理解	池田
第7回	これまでの授業を踏まえ自由討議	池田
第8回	教育公務員の義務・責任	池田
第9回	教育公務員の分限・懲戒	池田
第10回	教育委員会－制度の概要－	池田
第11回	教員の養成	池田
第12回	教員の研修	池田
第13回	教育職員免許状の更新	池田
第14回	教育関係諸法令の解説	池田
第15回	総括	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日頃より教育問題に関心をもち、新聞等における教育関連記事を読むよう努める	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	六法やICTの活用をとおし、法令検索の習慣をつける。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題や小テストの参考解答例の解説または配布をとおし、知識・理解の整理を図る。
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。
オフィスアワー	原則として　水曜日曜　16:30～17:30　研究室（西館414号室）

テキスト	『必携　教職六法　2018年度版』 若井彌一監修　協同出版（ISBN-13: 978-4319641185）
参考文献等	『切抜き速報シリーズ　教育版』ニホン・ミック
成績評価基準	教育法令の体系的俯瞰に基づき、学校教育活動と法令の関連性を説明することができる。
成績評価の方法	レポート（70%）　受講姿勢・意欲（30%）
GPA基準	
備考	

科目名	環境教育演習	科目ナンバー	J応2418
担当者	松﨑　康弘		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	豊かな自然環境をもつ鹿児島で環境教育の実践を行えるための専門的な知識や技能を習得するために、既習事項の見直しや実践事例の検討を行う。 また、屋久島環境文化研修センターにおける合宿研修をとおして、自然環境を諸感覚を用いて感じ取るセンスを磨き、豊かな自然環境を教材化し実践に生かそうとする意識を高める。さらに、環境教育や環境保護に従事する人々との交流を通じて、教育者や社会人としてふさわしい意識を構築する。
授業の到達目標	1. .環境教育の実践ができる専門的な知識や技能を習得できる 2. 地域の環境を教材化する意識を高める 3. 環境教育や環境保護に従事する人々の意識を学びとる

授業計画		担当者
第1回	イントロダクションで本演習のねらいを理解する	松﨑
第2回	屋久島の地域性について学ぶ	松﨑
第3回	（合宿）環境を生かした製作を学ぶ	松﨑
第4回	（合宿）環境を生かした産業を学ぶ	松﨑
第5回	（合宿）ナイトハイクで諸感覚を研ぎ澄ます	松﨑
第6回	（合宿）自然観察を通して教材化を考える	松﨑
第7回	（合宿）環境を生かした実践を実践者から学ぶ	松﨑
第8回	屋久島合宿での学びをふりかえり、まとめる	松﨑
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	保育内容（環境）や社会科教育法等の復習を行い、環境教育に対する課題意識をもって参加することを強く求める	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	合宿の成果を踏まえ、指導案作成等の応用を行う	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日　14:30～16:20　研究室（西館411号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『むすんでみよう子どもと自然　保育現場での環境教育実践ガイド』 井上美智子ほか編著　北大路書房 2010年 『環境教育指導資料〔幼稚園・小学校編〕』 国立教育政策研究所教育課程研究センター　東洋館出版社 2014年 ほか
成績評価基準	環境教育を実践するための基本的な知識・技能・意識を有していること
成績評価の方法	レポート（100%）
GPA基準	
備考	原則として受講者は小・幼・保コース学生に限る。2万円程度の合宿参加費が必要となる。 天候等により合宿先が変更となる場合がある。

科目名	カウンセリング入門	科目ナンバー	J応1465
担当者	松元　理恵子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証、ピアヘルパー		

授業の概要	悩みを抱えた心に触れ、耳を傾け、理解しようとするときには、自分の心をみつめることを含んだ包括的な視点を持つことが大切になる。自分自身の心を見つめ直し、自己理解を深めながら、他者理解をしていく過程を「聴く」練習やワークを通してその視点を説明する。 そして、心の課題にともに向き合い、日常生活の中でも実践していけるカウンセリングの演習体験を通し、人間性の尊重を軸とした心理的援助について理解することを目指す。
授業の到達目標	1. カウンセリングの基礎的理論を理解する 2. カウンセリングにおける「みたて」を理解する 3. 援助に必要な相談・面接技法を習得する

授業計画		担当者
第1回	エンカウンターについて（体験学習）	松元
第2回	カウンセリングの理論1（精神分析、自己理論）	松元
第3回	カウンセリングの理論2（行動療法、論理療法他）	松元
第4回	カウンセリングの技法1（受容、繰り返し、明確化）	松元
第5回	カウンセリングの技法2（支持、質問）	松元
第6回	カウンセリングの非言語的技法（体験学習）	松元
第7回	対話上の諸問題への対処法（ロールプレイング）	松元
第8回	青年期の課題（グループワーク、ロールプレイング）	松元
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。		
事前学習	専門用語や次に取り上げるテーマについて、テキストを読んで確認しておく	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	配布されたレジュメとテキストを照合しながら読み直す	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際は質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	火曜日・木曜日　12:05～12:55　研究室（西館305号室）

テキスト	『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会編　図書文化　2010年　1,500円（税抜き） （ISBN：9784810013436）
参考文献等	『ピアヘルパーワークブック』 日本教育カウンセラー協会編　図書文化　2011年　1,500円（税抜き） （ISBN：9784810023862）
成績評価基準	カウンセリングの基礎的知識や相談・面接のすすめ方を理解すること。
成績評価の方法	レポート提出（60%）　講義で出された課題（レポート等）の提出状況（30%）　受講および演習態度（10%）
GPA基準	
備考	

科目名	生涯学習論	科目ナンバー	J応3410
担当者	山元　有一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	生涯学習は1960年代から、余暇と労働の関係の変容を背景に成立してきたものだが、それは同時に知識のあり方の変容をも含んでいる。本講義では「生涯に渡って学ぶこと」の意義を知るとともに、それを他者にどのように伝えていくかを探る。
授業の到達目標	科目の性質上、すべてが事前事後の学習であり、そうした自覚で単に講義の時間ばかりでなく、すべてに対して興味関心を持つようお願いしたい。

授業計画		担当者
第1回	知るとは、あるいは学ぶとは？――他者教育と自己教育	山元
第2回	承前――高等教育機関における学びと生涯学習	山元
第3回	承前――職業生活における学びと生涯学習	山元
第4回	承前――老年期における学びと生涯学習	山元
第5回	生涯学習の歴史と展開――労働と余暇の関係で	山元
第6回	承前――生涯学習支援施設とその活動内容	山元
第7回	事例①――音楽や絵画は楽しむものか？	山元
第8回	事例②――自然科学は解くものか？	山元
第9回	事例③――歴史は覚えるものか？	山元
第10回	事例④――ロックや映画は気休めか？	山元
第11回	事例⑤――美食家は生涯学習をしているのか？	山元
第12回	事例⑥――読書しているだけで生涯学習をしていることになるのか？	山元
第13回	生涯学習の限界？――人的資源論と配分論を越えるために	山元
第14回	生涯学習と政治問題及び倫理問題	山元
第15回	総括――生涯学習を教えることは可能か？	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。	学習合計時間(h)	10時間
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。	学習合計時間(h)	50時間

課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日の講義以外の12:55～17:00研究室（西館406号室）

テキスト	特になし（テキストは使用しないので、丹念にノートを取ること）
参考文献等	講義中に有益な図書や映画など紹介するので、是非挑戦してもらいたい
成績評価基準	提出されたレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	家族関係論	科目ナンバー	J応3411
担当者	倉重　加代		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免・幼教免・保育士証		

授業の概要	一般的にミクロな視点で捉えられがちな家族をマクロに捉え、私たちが「これが家族だ」と描いている家族像や家族関係を見直す。そこから、家族のありようは普遍的なものではなく多様で、また社会や時代とともに変化することを学ぶ。さらに、子どもの社会化や少子化・子育て支援など、子どもをめぐる家族関係や社会情勢などを学習するとともに、教育・保育施設での参与観察を通して、教育者や保育者としての資質を高めたい。
授業の到達目標	1. 社会の動きにともなう家族の変化を理解する 2. 家族を多角的に捉える視点を身につける 3. 教育・保育現場で多様な状況に対応できる柔軟性を身につける

授業計画		担当者
第1回	家族とは何か―学問的定義とアンケートから考察する	倉重
第2回	家族の特性と機能について学ぶ	倉重
第3回	家族の類型と世帯について学ぶ	倉重
第4回	家族と全体社会の関係について学ぶ	倉重
第5回	家族変動の諸側面について学ぶ	倉重
第6回	産業化と戦後家族の変動について学ぶ	倉重
第7回	配偶者選択のメカニズムについて学ぶ	倉重
第8回	結婚の機能について理解する	倉重
第9回	未婚化と少子化について学ぶ	倉重
第10回	子どもの社会化と親子関係について学ぶ	倉重
第11回	子どもの社会化と社会関係について学ぶ	倉重
第12回	教育・保育現場で子どもの実態を観察する	倉重
第13回	観察結果をもとに子どもの社会化について議論する	倉重
第14回	観察の振り返りをし、子どもの実情の理解を深める	倉重
第15回	子育てのあり方について議論・発表する	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	家族に関する各種資料等を入手したり新聞を読んだりして家族に関する問題や動きに関心を持つ	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験のために授業内容の復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	火曜日　16:30～18:00　研究室（西館312号室）

テキスト	『第3版　家族社会学―基礎と応用―』 木下謙治監修、園井ゆり・浅利宙編　九州大学出版会　2016年 2,000円 （ISBN：978-4-7985-0189-5）
参考文献等	『21世紀家族へ――家族の戦後体制の見かた・超えかた（第4版）』 落合恵美子　有斐閣　2019　1,900円 （ISBN: 978-4-641-28146-2） 『少子化社会対策白書』 {少子化社会対策白書,https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/index.html} 総務省統計局ホームページ　ほか授業中に紹介
成績評価基準	到達目標の1.～3.は相互に関連し、1.を理解することが2.や3.の獲得につながることから、到達目標1.に掲げている「社会の動きにともなう家族の変化を理解する」を成績評価基準とする。
成績評価の方法	定期試験（90%）　毎時間のコメントシート（10%）
GPA基準	
備考	

科目名	子どもと音楽Ⅲ	科目ナンバー	J応1359
担当者	中村　礼香、稲森　奈津子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	保育・教育現場で必要な音楽活動の指導法や実践技術についての理論の理解を深めるとともに、実践力を高める。また、コードネームを用いた幼児曲の伴奏法や、簡易伴奏の作成方法などについて学び、現場で活用できるようにする。
授業の到達目標	1. コードネームを用いた伴奏法を習得する。 2. 保育・教育現場における音楽活動について理解し、活用できるようになる。 3. 幼児曲の弾き歌いの技術を高める。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／ピアノレッスン	A・B
第2回	歌唱法・4月のうた／ピアノレッスン	A・B
第3回	5月・6月のうた／ピアノレッスン	A・B
第4回	簡易楽器奏法・2, 3歳児器楽合奏／ピアノレッスン	A・B
第5回	4, 5歳児器楽合奏／ピアノレッスン	A・B
第6回	7月・8月のうた／ピアノレッスン	A・B
第7回	9月・10月のうた／ピアノレッスン	A・B
第8回	保育・教育現場における音楽活動についての討論及び発表／ピアノレッスン	A・B
第9回	11月・12月のうた／ピアノレッスン	A・B
第10回	コードネーム／ピアノレッスン	A・B
第11回	簡易伴奏作成法／ピアノレッスン	A・B
第12回	幼児曲伴奏法／ピアノレッスン	A・B
第13回	1月・2月・3月のうた／ピアノレッスン	A・B
第14回	ボディーパーカッション・生活のうた／ピアノレッスン	A・B
第15回	弾き歌い実技試験／ピアノレッスン	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	ピアノレッスン時に合格できるように、事前に練習をした上で授業に臨むこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ピアノレッスンで注意されたところは復習すること。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	ピアノレッスンについては、授業時間内で課題をクリアすることが望ましいが、初心者の学生については個別に対応する。また、講義において小テストや課題を課した場合は返却後に個別に指導を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	中村：水曜日　10:35～12:05　　研究室（本館601号室） 稲森：月曜日　12:05～12:55　　ピアノ講師室（本館6階）

テキスト	・『うたとあそび～「うた」をきっかけに広がる保育のために』鹿児島市私立幼稚園協会編　共同音楽出版社 2019年　2,000円（税抜き）（ISBN：978-4-7785-0416-8） ・各自のピアノレベルに応じたピアノ教則本及び楽譜集
参考文献等	特に指定せず、適宜資料を配布する。
成績評価基準	・ピアノ課題曲を全て合格すること。 ・伴奏法、簡易伴奏作成法について理解し、実践に活用することができること。
成績評価の方法	簡易伴奏作成の課題(30%)、講義の平常点（10%)、ピアノの平常点(10%)、弾き歌い実技試験(25%)、クラシック実技試験（25%）で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	A:45分演習、B：45分ピアノレッスンで授業を構成する。 A：中村（1組・2組・3組・4組）・稲森（5組・6組） B：ピアノ指導（有満・窪田・高取・武田・蜷川・濱﨑・古川・村原・桃坂）

科目名	子どもと音楽Ⅳ	科目ナンバー	J応1460
担当者	中村　礼香		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	保育・教育現場で行われている様々な音楽活動を紹介する。それらの音楽活動を実際に体験する場を設け、理論を解説することにより、表現活動についての理解を深め、現場での実践力・指導力を高める。
授業の到達目標	1. 保育・教育現場で行われる音楽活動を実践する技術を習得する。 2. 幼児曲の弾き歌いの技術を高める。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／ピアノレッスン	A・B
第2回	リズム遊び／ピアノレッスン	A・B
第3回	リトミックⅠ（リズム・拍・拍子）／ピアノレッスン	A・B
第4回	リトミックⅡ（フレーズ・強弱）／ピアノレッスン	A・B
第5回	リトミックⅢ（絵本・ストーリー）／ピアノレッスン	A・B
第6回	わたべうたⅠ（調べ学習）／ピアノレッスン	A・B
第7回	わらべうたⅡ（指導案作成）／ピアノレッスン	A・B
第8回	わらべうたⅢ（模擬保育）／ピアノレッスン	A・B
第9回	歌から遊びへの展開Ⅰ（講義）／ピアノレッスン	A・B
第10回	歌から遊びへの展開Ⅱ（指導案作成）／ピアノレッスン	A・B
第11回	歌から遊びへの展開Ⅲ（模擬保育）／ピアノレッスン	A・B
第12回	ハンドベルⅠ（基礎奏法）／ピアノレッスン	A・B
第13回	ハンドベルⅡ（合奏）／ピアノレッスン	A・B
第14回	器楽合奏／ピアノレッスン	A・B
第15回	弾き歌い実技試験／ピアノレッスン	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	ピアノレッスン時に合格できるように、事前に練習をした上で授業に臨むこと。 模擬保育の際は事前に準備を行うこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ピアノレッスンで注意されたところは復習すること。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	ピアノレッスンについては、授業時間内で課題をクリアすることが望ましいが、初心者の学生については個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日　12:55～14:25　研究室（本館601号室）

テキスト	『うたとあそび～「うた」をきっかけに広がる保育のために』鹿児島市私立幼稚園協会編　共同音楽出版社 2019年　2,000円（税抜き）（ISBN：978-4-7785-0416-8） ・各自のピアノレベルに応じたピアノ教則本及び楽譜集
参考文献等	特に指定せず、適宜資料を配布する。
成績評価基準	・ピアノ課題曲を全て合格すること。 ・子どもの音楽遊び、音遊びについて理解すること。
成績評価の方法	レポート（20%）　模擬保育（20%）　講義の平常点（10%）　ピアノ平常点（10%）　弾き歌い実技試験(20%)　クラシック実技試験（20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	A:45分演習、B：45分ピアノレッスンで授業を構成する。 A：中村 B：ピアノ指導（有満・窪田・高取・武田・蜷川・濱﨑・古川・村原・桃坂）

科目名	子どもと造形Ⅱ	科目ナンバー	J応1362
担当者	井上　周一郎		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	本科目は「子どもと造形Ⅰ」「保育内容（表現）の指導法」の発展的な科目として位置づけるものである。ここでは、幼児が夢中になる"つくる"活動を主題に、適切な保育の内容と方法を解説する。様々な製作実習にも取り組み、保育者として必要な資質と技能の習得を図りながら、手や身体を通して思考することの大切さについて理解を促す。併せて、幼児の感性や創造性を養うための製作活動の在り方（教材研究、環境構成、導入等）について考察を深め、現場での実践力を高める。
授業の到達目標	1. 幼児期における"つくる"活動の目的や内容を理解する 2. 幼児期における"つくる"活動の発達過程等を習得し、保育の方法を理解する 3. "つくる"活動を中心に、幅広い工作活動の基本的な知識や技能を習得する 4. .製作実習を通して、感性を育み創造する喜びを味わう

授業計画		担当者
第1回	"美術"という言葉	井上
第2回	幼児と造形（かく・つくる）	井上
第3回	グループワークで"感触遊び"を体感する	井上
第4回	多様な" 感触遊び "の内容とねらい、方法を学ぶ	井上
第5回	3歳児の製作活動を学ぶ	井上
第6回	4歳児の製作活動を学ぶ	井上
第7回	児童文化財（パネルシアター・ペープサート）の特徴や種類、演じ方について学びを深める	井上
第8回	5歳児の製作活動を学ぶ	井上
第9回	～切り紙による製作実習Ⅰ（基本的な作り方と多様な図柄を学ぶ）～	井上
第10回	～切り紙による製作実習Ⅱ（応用的な作り方を学ぶ）～	井上
第11回	～切り紙による製作実習Ⅲ（テーマに基づく画面構成を学ぶ）～	井上
第12回	～ダンボール等による製作実習～	井上
第13回	～紙粘土による製作実習Ⅰ（混色による粘土遊び）～	井上
第14回	～紙粘土による製作実習Ⅱ（粘土の種類や特徴を知る）～	井上
第15回	幼児が夢中になる"つくる"活動の在り方について発表（教材研究、環境構成、導入、援助、言葉がけ等）	井上

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	意味のわからない用語は辞書などで調べておくこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	課題製作や課外学習のレポートに取り組み、造形表現の豊かさを味わうこと	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題製作やレポートに関しては、求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	金曜日　16:30～18:00　研究室（本館609号室）

テキスト	『幼児造形の基礎』 編著　樋口一成　萌文書林　2018年11月9日　2400円　（ISBN：978-4-89347-311-0 C3037）
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、作品評価（30%）、鑑賞学習のレポート（10%）、定期試験（40%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	

科目名	子どもと身体表現	科目ナンバー	J応1464
担当者	小松　恵理子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	本授業では、幼児の「自発性・好奇心」を重視した遊びや体験活動を取り入れた運動による表現活動を通して、領域：表現」にいて目的とされる「幼児の豊かな感性や創造性」を培う方法について学ぶ。また、VTRや教科書を通じて、身体表現指導の基礎的理論を学び、発達過程に沿った日常の保育から発表会・運動会までの模擬保育や現場での観察・実践体験を通じ、保育実践力の向上を図る。
授業の到達目標	1. 子どもの身体表現について発達過程に沿った基礎的理論や指導技術を身につける事ができる。 2. 子どもの身体表現のカリキュラム作成やオリジナル保育案の作成ができる 3. 子どもの身体表現の効果的な保育実践力を身につける

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション/身体表現の基礎理論①表現の定義・表現の発達	小松
第2回	身体表現の基礎理論②豊かな表現へ導く環境について（実践映像視聴）	小松
第3回	保育現場での身体表実践観察（3歳未満児）	小松
第4回	保育現場での身体表現実践観察（3歳以上児）	小松
第5回	保育指導技術の習得：①手遊び・歌遊び・身近な素材から身体表現へ	小松
第6回	保育指導技術の習得：②言葉のリズムから身体表現へ（絵本を使って）	小松
第7回	保育指導技術の習得③生活・季節や行事・日本文化から身体表現へ	小松
第8回	保育指導技術の習得④空想・物語から表現へ（ストーリーのある絵本を使って）	小松
第9回	年齢に応じた年間保育計画・保育案の作成について（0～1歳児）	小松
第10回	年齢に応じた年間保育計画・保育案の作成について（2～3歳児）	小松
第11回	年齢に応じた年間保育計画・保育案の作成について（4～5歳児）	小松
第12回	保育現場での身体表現指導実践（0～1歳児）	小松
第13回	保育現場での身体表現指導実践（2～3歳児）	小松
第14回	保育現場での身体表現指導実践（4～5歳児）	小松
第15回	身体表現保育への振り返り	小松

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	毎週、授業以前に1時間の予習を行う。 （担当保育前には、時間を追加する。）	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	毎週、授業以後に1時間の復習を行う。 （担当保育後には、時間を追加する。）	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別やグループ別に対応する。
質問・相談方法	授業時間前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	水・金曜日　授業終了後　非常勤室（本館104号室）

テキスト	『乳幼児のための豊かな感性を育む身体表現遊び』 井上勝子編著　ぎょうせい　2020 （ISBN：978-4-324-09269-9）
参考文献等	『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
成績評価基準	到達目標の３点について理解した上での実践活動を行い、その評価において６割以上の得たも者を合格とする。
成績評価の方法	レポート(30%)　年間保育計画・保育案作成(30%)　　保育実践(30%)　その他、授業への積極的参加態度(10%)
GPA基準	
備考	※授業においては以下の内容を実施する。それに従い、授業時間の変更を含む。 １）保育現場での身体表現活動の実際を、卒業生の勤務する園にて見学する。 ２）保育現場の協力を得て、現場での身体表現の保育実践をさせて頂く。

科目名	子どもと運動遊び	科目ナンバー	J応1363
担当者	金浦　美咲		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	子どもの発達と運動あそびについて理解を深め、集団あそびにつながる基礎的運動技能習得を目的としたあそびを中心に実践を通して、指導法を学ぶ。また、保育者として必要な知識と技能を身につけるとともに、その資質を養う。
授業の到達目標	1. 子どもの発育発達と運動技能の習得過程について理解することができる 2. 子どもの活動に関する安全管理の方法を理解し実践できる 3. 子どもの発育発達に応じた運動あそびを構築し実践できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（授業のねらいと目的の確認）	金浦
第2回	子どもの運動における発育発達について学ぶ	金浦
第3回	運動あそびの意義について学ぶ	金浦
第4回	運動あそびの安全上の留意点について学ぶ	金浦
第5回	0歳1歳児向けの運動あそび	金浦
第6回	2歳3歳児向けの運動あそび	金浦
第7回	4歳5歳児向けの運動あそび	金浦
第8回	器械・器具を使用しての運動あそび1（日常上品を利用した運動あそび）	金浦
第9回	器械・器具を使用しての運動あそび2（マット・跳び箱などを利用した運動あそび）	金浦
第10回	ボールあそび1（個人技能習得を目指したあそび）	金浦
第11回	ボールあそび2（集団でのボールゲーム）	金浦
第12回	運動あそびプログラム作成についての理解	金浦
第13回	運動あそびプログラム作成(発育発達に着目して)	金浦
第14回	運動あそびプログラム実践1	金浦
第15回	運動あそびプログラム実践2	金浦

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○		○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	参考資料等を熟読する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義内容を振り返る	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応
オフィスアワー	水曜日　10：35～12:55　研究室（体育館202号室）

テキスト	適宜資料を配布する
参考文献等	『子どもの遊び・運動・スポーツ』 浅見俊雄他著　市村出版
成績評価基準	到達目標の３点について理解し実践できること
成績評価の方法	定期試験（80％）、受講態度（20％）
GPA基準	
備考	履修希望者が　　名以下の場合、開講されません。

科目名	読書と豊かな人間性	科目ナンバー	J司1453
担当者	川戸理恵子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免・幼教免・保育士証　　必修：司書教諭		

授業の概要	学校図書館の役割は、大きく学習指導と読書指導に大別される。そのうち読書指導は、子どもたちの人間性の育成に重要な役割を果たすものである。そこで、児童生徒の発達段階に応じた読書指導について校種ごとに概観しながら、特に小学校における理論を理解し、必要な技能を身につけてもらうことを目的とする。 なお、本講義には各回で扱われるテーマについて、授業計画に記入されているもの以外にもディスカッションやグループワーク等を行うことがある。
授業の到達目標	1. 読書の意義を理解する 2. 学校図書館における読書指導について理解する 3. 学校図書館で読書指導を実践できる知識と技能を身につける

授業計画		担当者
第1回	読書の意義と目的	川戸
第2回	子どもと読書をめぐる現状と課題	川戸
第3回	子どもの発達段階と読書	川戸
第4回	子どもの読書と大人の読書	川戸
第5回	読書に活用するための図書の種類	川戸
第6回	学校図書館における読書指導の概要	川戸
第7回	学校図書館における読書指導の実際	川戸
第8回	読書指導の実践1：読み聞かせ、ストーリーテリング等（※グループワーク、発表含む）	川戸
第9回	読書指導の実践2：ブックトーク等（※グループワーク、発表含む）	川戸
第10回	読書指導の実践3：アニマシオン等（※グループワーク、発表含む）	川戸
第11回	読書指導の実践4：読書会等（※グループワーク、発表含む）	川戸
第12回	読書指導の実践5：読書指導の準備（※グループワーク、発表含む）	川戸
第13回	読書指導の実践6：読書指導の実践（※グループワーク、発表含む）	川戸
第14回	子どもの読書を支える環境（各種組織や機関との連携）	川戸
第15回	総括	川戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業内容の理解を深められるように提出された資料をよく読む			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容を踏まえて知識の整理をする			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	火曜日　16：20～17:20　研究室（西館402号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『読書と豊かな人間性』「シリーズ学校図書館学」編集委員会編　全国学校図書館協議会　2011　1,500円（税抜き）　（ISBN：978-4-7933-2245-7）
成績評価基準	学校図書館を活用した読書指導を実践できる知識と技術を身につけること。
成績評価の方法	最終レポートの提出(50%)、受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(40%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	受講は、司書教諭免許取得希望者を優先します。 受講者数が30名を超えた場合、抽選となります。

科目名	子ども家庭支援論	科目ナンバー	J保1445
担当者	赤瀬川　修		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		

授業の概要	児童福祉施設等に勤務する保育士・保育教諭は、保護者および地域の子育て家庭にとって最も身近で重要な子育て支援の担い手である。本科目では、子育て支援における、保育士に求められる役割や、支援の際の基本的な態度や技術について学ぶ。さらに、課題解決に必要となる社会資源の活用や関係機関との連携について学び、理解を深める。
授業の到達目標	1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士との役割について理解する 2. 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する

授業計画		担当者
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性	赤瀬川
第2回	子ども家庭福祉の目的と機能	赤瀬川
第3回	子育て支援施策・次世代育成施策の推進	赤瀬川
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	赤瀬川
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭福祉とその意義	赤瀬川
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	赤瀬川
第7回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	赤瀬川
第8回	保育士に求められる基本的態度	赤瀬川
第9回	家庭の状況に応じた支援	赤瀬川
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	赤瀬川
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	赤瀬川
第12回	保育所等を利用する子どもへの家庭への支援	赤瀬川
第13回	地域の子育て家庭への支援	赤瀬川
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	赤瀬川
第15回	子育て支援に関する課題と展望	赤瀬川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	書籍、新聞、インターネット等で子育てに関する問題の現状や課題について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	水曜日　16:30～18:00　研究室（西館409号室）

テキスト	
参考文献等	『子育て支援　15のストーリーで学ぶワークブック』二宮祐子　萌文書林　2018　1800円　（ISBN：　978-4-89347-284-7）
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること
成績評価の方法	事前・事後課題（20%）と期末試験（80%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	社会的養護Ⅱ	科目ナンバー	J保2317
担当者	赤瀬川　修		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	本科目では、社会的養護Ⅰで学んだ、社会的養護の理論、支援体制、児童の権利擁護などを基盤として、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設などにおける、その実践方法などについて、理解を深め、基本的技術を修得する。
授業の到達目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的内容、施設養護及び家庭養護の実際について理解する 2. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 3. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 4. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する

授業計画		担当者
第1回	社会的養護の内容（1）　社会的養護における子どもの理解	赤瀬川
第2回	社会的養護の内容（2）　日常生活支援	赤瀬川
第3回	社会的養護の内容（3）　治療的支援	赤瀬川
第4回	社会的養護の内容（4）　自立支援	赤瀬川
第5回	社会的養護の生活特性および実際	赤瀬川
第6回	家庭養護の生活特性および実際	赤瀬川
第7回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価（1）　アセスメント	赤瀬川
第8回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価（2）　個別支援計画の作成	赤瀬川
第9回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価（3）　記録の作成	赤瀬川
第10回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価（4）　自己評価	赤瀬川
第11回	社会的養護に関わる専門的技術（1）　保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	赤瀬川
第12回	社会的養護に関わる専門的技術（2）　社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	赤瀬川
第13回	社会的養護における家庭支援	赤瀬川
第14回	社会的養護の課題と展望	赤瀬川
第15回	まとめ	赤瀬川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	水曜日　16:30～18:00　研究室（西館409号室）

テキスト	検討中
参考文献等	『やさしくわかる社会的養護　シリーズ１～７』 相澤仁編集代表　明石出版　2012年～2014年　各2400円（ISBN：9784750337197）（1巻）
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること
成績評価の方法	事前・事後課題（40%）と期末試験（60%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	子ども家庭支援の心理学	科目ナンバー	J保3414
担当者	平嶋　慶子・松元　理恵子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	1．人の心理的・社会的発達を学び、生涯発達について理解することを通して、児童の各発達段階における発達課題を理解する。 2．相互作用の観点から初期経験の重要性や発達の可塑性について学ぶ。 3．家庭・家族の関係性の発達変化を理解し、包括的あるいは多様な視点からとらえることを学ぶ。子どもの精神保健とその課題、子どもや家庭を取り巻く現代社会の特徴を理解し、その課題を考える。
授業の到達目標	1．発達の概念と生涯発達について、心理的基礎檜櫂を計り、初期経験の重要性や発達課題などについて学ぶ。 2．家族や家庭の意義・機能を理解し、発達的観点から家族や親子の関係性について理解し、子どもととその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3．子どもの精神保健とその課題について理解する。子育て家庭を取り巻く現代の社会状況とその課題を理解する。

授業計画		担当者
第1回	発達概念の理解と人の生涯発達について	平嶋
第2回	乳幼児期と小学校就学後の発達について	平嶋
第3回	児童期後半から思春期を経て青年期に至る発達について	平嶋
第4回	成人期・老年期について	平嶋
第5回	家族・家庭の定義と様々なな家族の姿	平嶋
第6回	家族関係の発達と親子の関係性について	平嶋
第7回	人の社会的変化および親になるということ	平嶋
第8回	子どもの生活・生育環境が与える影響について	松元
第9回	子どもの心の健康に関わる問題について（課題についての事例検討）	松元
第10回	日本における家族の変遷と現代日本の子育てを取り巻く社会状況について	平嶋
第11回	少子化社会における子育ての問題点	平嶋
第12回	仕事と子育ての両立とライフコース	平嶋
第13回	多様な家庭・家族とその理解	平嶋
第14回	配慮を要する家庭について	平嶋
第15回	保育者としての発達・成長と自己理解の大切さについて	平嶋・松元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	平嶋：鹿児島市における3歳児健康診査・すくすく親子教室・総合発達相談会の心理職や保育所における子育て相談の経験を生かす。 松元：臨床心理士の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。		
事前学習	配布資料は早めに目を通しておき、毎授業持参する。また不明な用語や事項は下調べしておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中のキーワードや事例・事件は自分で検索して簡単にまとめておく。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	レポート課題はその都度、全体的評価（良い内容やアドバイスなど）を次の授業時に紹介する。
質問・相談方法	授業時やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	平嶋：月・水・金曜日　16:10～17：00　研究室（西館416号室） 松元：火・木曜日　12:05～12:55　研究室（西館305号室）

テキスト	『子ども家庭支援の心理学』 松本園子・永田陽子・長谷部比呂美・堀口美智子・日比暁美　著　ななみ書房　（ISBN：978-4-903355-79-5）
参考文献等	特になし
成績評価基準	子どもの発達と家庭の関係性や、総合的な支援の視点が理解できたものを合格とする。
成績評価の方法	①全４回のレポート提出（40%）②筆記試験（40%）③授業への参加態度（20%）
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	子どもの食と栄養	科目ナンバー	J保1344
担当者	酒瀬川　里美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	望ましい食生活のあり方を考え、自らの食生活で知識を活かした食事を実践できるよう、栄養の基本的知識について学習する。 また保育士として適切な食育が出来るよう、乳児期から学童期の子どもたちの食生活上の援助について知識と技術を習得する。
授業の到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本・内容を理解し、家庭や児童福祉施設における食生活の現状に即した食育が出来るようになる。

授業計画		担当者
第1回	子どもの健康と食生活の目標と意義	酒瀬川
第2回	栄養に関する基本的知識	酒瀬川
第3回	献立作成の要点と調理の基礎知識	酒瀬川
第4回	妊娠期（胎児期）の食生活と栄養	酒瀬川
第5回	乳児期の特徴と食生活	酒瀬川
第6回	離乳期の栄養	酒瀬川
第7回	幼児期の食生活と栄養	酒瀬川
第8回	学童期の食生活と栄養	酒瀬川
第9回	思春期以降の食生活と栄養	酒瀬川
第10回	子どもの疾患と食生活	酒瀬川
第11回	食物アレルギーと食生活	酒瀬川
第12回	障がいのある子どもの食生活	酒瀬川
第13回	児童福祉施設における食生活と栄養	酒瀬川
第14回	食育の基本	酒瀬川
第15回	食育の計画と実践	酒瀬川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	テキストの熟読と疑問点の洗い出し	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業ごとの設問キーワードへの理解	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	出席シートを振り返りシートとして活用し、授業毎に評価する
質問・相談方法	オフィスアワーを活用
オフィスアワー	火曜日　12:05～12:55　非常勤講師室（本館104号）

テキスト	『最新子どもの食と栄養』 飯塚美和子 ほか　学建書院　2019年　2,400円（ISBN:978-4-7624-5841-5）
参考文献等	高校家庭基礎・家庭総合などの教科書
成績評価基準	保育士として、子どもの発育と食事の関係性がわかり、成長期の食育の意義が理解できる。
成績評価の方法	期末試験（70%）課題提出（30%）
GPA基準	
備考	

科目名	子育て支援	科目ナンバー	J保1446
担当者	赤瀬川　修		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	本科目では、子ども家庭支援論やこども家庭福祉論などで学んだ知識をもとにして、子育て支援の計画、実践、評価などの技術を学び、子育て支援の実践的技術の修得をめざす。また、事例検討やロールプレイを通して、子育て支援の実践力を高める。
授業の到達目標	1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解する 2. 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する

授業計画		担当者
第1回	子どもの保育とともに行う保護者の支援	赤瀬川
第2回	日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	赤瀬川
第3回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多角的な理解	赤瀬川
第4回	子どもおよび保護者の状況・状態の把握	赤瀬川
第5回	支援の計画と環境の構成	赤瀬川
第6回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	赤瀬川
第7回	職員間の連携・協働	赤瀬川
第8回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	赤瀬川
第9回	保育所等における支援	赤瀬川
第10回	地域の子育て家庭に対する支援	赤瀬川
第11回	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援	赤瀬川
第12回	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	赤瀬川
第13回	子ども虐待の予防と対応	赤瀬川
第14回	要保護児童等の家庭に対する支援	赤瀬川
第15回	多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解	赤瀬川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	書籍、新聞、インターネット等で子育てに関する問題の現状や課題について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	水曜日　16:30～18:00　研究室（西館409号室）

テキスト	『演習・保育と子育て支援』小原敏郎ら編　みらい　2019　2200円　（ISBN：978-4-86015-490-5）
参考文献等	『子育て支援　15のストーリーで学ぶワークブック』二宮祐子　萌文書林　2018　1800円　（ISBN：978-4-89347-284-7）
成績評価基準	到達目標に掲げた2つのテーマについて理解すること
成績評価の方法	事前・事後課題（40%）と期末試験（60%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	施設実習Ⅰ指導	科目ナンバー	J保2312
担当者	赤瀬川　修、松下　茉莉香、本田　和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	施設実習前及び実習後に次の内容を目標として講義を行う。①施設実習Ⅰの意義・目的を理解する、②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする、③実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する、④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する、⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業の到達目標	1. 実習施設における保育士の職務内容及び役割について理解する 2. 実習における明確な到達目標を設定する 3. 実習生に求められる知識や技術を獲得し、留意事項を理解する

授業計画		担当者
第1回	実習の目的、概要について理解する	赤瀬川・松下・本田
第2回	実習施設について理解を深める	赤瀬川・松下・本田
第3回	実習内容について理解を深める	赤瀬川・松下・本田
第4回	子どもの人権と最善の利益	赤瀬川・松下・本田
第5回	プライバシーの保護	赤瀬川・松下・本田
第6回	実習生としての心構え	赤瀬川・松下・本田
第7回	実習計画作成の目的・作成方法について	赤瀬川・松下・本田
第8回	実習計画書の作成演習	赤瀬川・松下・本田
第9回	実習後の自己評価・振り返り	赤瀬川・松下・本田
第10回	実習報告書作成指導	赤瀬川・松下・本田
第11回	実習報告会①　グループディスカッション	赤瀬川・松下・本田
第12回	実習報告会②　乳児院、児童養護施設における実習の発表	赤瀬川・松下・本田
第13回	実習報告会②　児童発達支援センター、障害児入所施設における実習の発表	赤瀬川・松下・本田
第14回	実習報告会③　障害者支援施設、障害福祉サービス事業所における実習の発表	赤瀬川・松下・本田
第15回	実習の総括と課題の明確化	赤瀬川・松下・本田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	授業で示す事前学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ理解を深める	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	授業で示す事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について　調べ理解を深める	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	赤瀬川：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館409号室） 松下　：月曜日　16:30～18:00　研究室（本館602号室） 本田　：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館311号室）

テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』 和田上貴昭ら編　同文書院　2020年　（ISBN：978-4-8103-1494-6） 『保育実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	事前・事後課題（70%）と小テスト（30%）で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	施設実習Ⅰ	科目ナンバー	J保2311
担当者	赤瀬川　修、松下　茉莉香、本田　和也		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	以下のことを目標として設定し施設実習Ⅰを行う。①児童福祉施設（保育所を除く）、障害者支援施設等の理解や機能を具体的に理解する、②観察や子ども・利用者との関わりを通して、子ども、利用者への理解を深める、③既習の教科の内容を踏まえ、子ども・利用者の支援及び保護者への支援について総合的に学ぶ、④支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する、⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
授業の到達目標	1. 児童福祉施設等の役割や機能、現状を理解する 2. 子ども・利用者への理解を深める 3. 子ども・利用者への支援及び保護者への支援を習得する

授業計画		担当者
第1回	施設での生活を理解する	赤瀬川・松下・本田
第2回	施設の日課を理解する	赤瀬川・松下・本田
第3回	施設の役割を理解する	赤瀬川・松下・本田
第4回	施設の機能を理解する	赤瀬川・松下・本田
第5回	子ども・利用者を観察する	赤瀬川・松下・本田
第6回	観察をもとに記録を作成する	赤瀬川・松下・本田
第7回	個々の状態に応じた援助について理解する	赤瀬川・松下・本田
第8回	計画に基づく活動や援助について理解する	赤瀬川・松下・本田
第9回	子ども・利用者を観察する	赤瀬川・松下・本田
第10回	子ども・利用者の活動と生活環境について理解する	赤瀬川・松下・本田
第11回	支援計画について理解する	赤瀬川・松下・本田
第12回	記録に基づく省察、自己評価を行う	赤瀬川・松下・本田
第13回	保育士の業務内容について理解する	赤瀬川・松下・本田
第14回	職員間の役割分担や連携について理解する	赤瀬川・松下・本田
第15回	保育士の役割と職業倫理について理解する	赤瀬川・松下・本田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	事前オリエンテーションにおいて説明を受けた、施設及び利用者の現状について整理し、理解を深める。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実習において求められる知識・支援技術等について整理し、課題を見出す。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・実習後にグループ発表及び全体実習報告会を実施し、実習での学びの共有化、理解を深める ・実習終了後に必要と思われる学生に個別の指導を実施する
質問・相談方法	実習訪問教員、もしくは施設実習指導教員が面接、電話、メール等で質問に対応する
オフィスアワー	赤瀬川：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館409号室） 松下　：月曜日　16:30～18:00　研究室（本館602号室） 本田　：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館311号室）

テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』 和田上貴昭ら編　同文書院　2020年　（ISBN：978-4-8103-1494-6） 『保育実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	実習施設による評価（100%）
GPA基準	
備考	

科目名	保育所実習Ⅱ指導	科目ナンバー	J保2316
担当者	藤川　和也、宇都　弘美、丸田　愛子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	保育所実習の意義と目的を再確認し、既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。また、保育の観察、実践、記録及び自己評価等を踏まえ、保育の改善について学ぶ。さらに、実習の事後指導等を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育についての課題を明らかにする。
授業の到達目標	1. 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。 2. 実習の総括と自己評価を行い、自身の保育の課題を明らかにする。

授業計画		担当者
第1回	保育所実習Ⅰ事後指導及び保育所実習Ⅱに向けて	藤川・宇都・丸田
第2回	保育所実習Ⅰでの各自の課題の確認	藤川・宇都
第3回	実習記録の記載法の再確認、保育場面を視聴し記録する	藤川・宇都
第4回	保育場面を視聴し記録する	藤川・宇都
第5回	保育所実習Ⅱの目標の設定について	藤川・宇都
第6回	事前訪問について	藤川・宇都・丸田
第7回	事前訪問後の記録の整理及び指導案作成のための教材研究	藤川・宇都
第8回	腸内細菌検査について	藤川・宇都
第9回	検査結果配付と実習準備の確認	藤川・宇都
第10回	乳児の生活援助の演習	藤川・宇都
第11回	実習事後指導、レポート提出	藤川・宇都
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	授業内容をシラバスで確認し必要書類等の準備をする。	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義の内容を再確認し、実習に向けての準備を進める。	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	講義内で要点を解説するとともに、求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	藤川：月曜日　15:00～16:00　　研究室（西館405号室） 宇都：金曜日　16:30～18：00　研究室（西館306号室） 丸田：火曜日　14：40～17：55　研究室（西館403号室）

テキスト	『保育所実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編　鹿児島女子短期大学　2018
参考文献等	『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』 汐見稔幸監修　学研プラス　2017　￥1,700 （ISBN-10: 4058008091） 『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版』 石橋裕子著／林幸範著　同文書院　2018　￥2,000 （ISBN-10: 4810314758）
成績評価基準	保育所実習Ⅱの総括と自己評価を行い、今後の自身の保育の課題を明らかにすること。
成績評価の方法	実習準備の取り組み状況とレポート（実習の終了報告書）で総合的に評価する（100%）
GPA基準	
備考	※ 実習参加には、第1回～第10回まで全ての受講が必要。 ※ 欠席（公欠も含む）の場合、補講を実施することがある。 ※ 欠席事由により、実習に参加できないことがある。

科目名	保育所実習Ⅱ	科目ナンバー	J保2315
担当者	藤川　和也、宇都　弘美、丸田　愛子		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について学ぶ。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実践し、理解を深める。さらに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理、家庭・地域社会との連携について総合的に学び、自己の子ども観や保育観の確立を目指す。
授業の到達目標	1. 保育課程に基づく指導計画の一部を実践し、評価する。 2. 入所児の保護者支援や地域の子育て、家庭への支援を学ぶ。 3. 実践を通して、保育士としての自己の課題を明確にする。

授業計画		担当者
第1回	保育所の社会的役割と責任	A
第2回	保育所での生活や子どもの状態と保育士等の援助	A
第3回	全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・評価	A
第4回	入所児の保護者支援や地域の子育て家庭への支援	A
第5回	多様な保育の展開と保育士等の業務との連携について	A
第6回	地域社会との連携	A
第7回	実習を通しての保育士としての自己の課題の明確化	A
第8回	保育参加（0歳児クラス）	A
第9回	保育参加（1歳児クラス）	A
第10回	保育参加（2歳児クラス）	A
第11回	保育参加（3歳児クラス）	A
第12回	保育参加（4歳児クラス）	A
第13回	保育参加（5歳児クラス）	A
第14回	実習の振り返り	A
第15回	実習のまとめ	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導案作成や製作準備をおこなう	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎日、帰宅後に実習を振り返り、実習記録を作成する。	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	オフィスアワー、実習先訪問時に対応する
オフィスアワー	藤川：月曜日　15:00～16:00　　研究室（西館405号室） 宇都：金曜日　16:30～18：00　研究室（西館306号室） 丸田：火曜日　14：40～17：55　研究室（西館403号室）

テキスト	『保育所実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編　鹿児島女子短期大学　2018
参考文献等	『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』 汐見稔幸監修　学研プラス　2017　￥1,700 （ISBN-10: 4058008091） 『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版』 石橋裕子著／林幸範著 同文書院　2018　￥2,000 （ISBN-10: 4810314758）
成績評価基準	入所児の保護者支援や地域の子育て、家庭への支援を学ぶとともに、保育課程に基づく指導計画の一部を実践した際の振り返りを通して、保育士としての自己の課題を明確にすること。
成績評価の方法	本学が定めた評価表に従って、各実習先が評価する（100%） 評価の観点は、実習の態度、保育・援助の実践、実習記録の3項目とする。
GPA基準	
備考	A：実習施設担当者　　※ 実習参加資格審査に合格していないと、保育所実習Ⅱには参加できない。 ※ 参加要件については、学生便覧等で確認しておくこと。 ※ 保育所実習Ⅱ指導を無断欠席した場合、実習に参加できないことがある。

科目名	施設実習Ⅱ指導	科目ナンバー	J保2314
担当者	赤瀬川　修、松下　茉莉香、本田　和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	施設実習Ⅰでの学びを基盤にして、以下のことを目標と設定し実習指導を行う。①施設実習Ⅱの意義と目的を理解し、支援について総合的に学ぶ、②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、支援の実践力を培う、③支援場面の観察、記録及び自己評価等を踏まえ支援の改善について実践や事例を通して学ぶ、④保育士の専門性と職業倫理について理解する、⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、支援に対する課題や認識を明確にする。
授業の到達目標	1. 施設実習Ⅰでの経験を生かし、より専門的な支援技術を修得する 2. 個別支援計画に基づいた支援の必要性と具体的方法を修得する

授業計画		担当者
第1回	施設実習Ⅰの振り返り	赤瀬川・松下・本田
第2回	施設実習Ⅱの内容の理解、課題の設定	赤瀬川・松下・本田
第3回	各実習施設での事例について考察し、支援方法を検討する	赤瀬川・松下・本田
第4回	保育実践力を育成する①　利用者の状態に応じた適切な関わり	赤瀬川・松下・本田
第5回	保育実践力を育成する②　保育の表現技術を生かした支援実践	赤瀬川・松下・本田
第6回	支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践	赤瀬川・松下・本田
第7回	支援の観察、記録、自己評価に基づく支援の改善	赤瀬川・松下・本田
第8回	実習の総括と評価	赤瀬川・松下・本田
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	授業で示す事前学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	授業で示す事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	赤瀬川：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館409号室） 松下　：月曜日　16:30～18:00　研究室（本館602号室） 本田　：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館311号室）

テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』 和田上貴昭ら編　同文書院　2020年　（ISBN：978-4-8103-1494-6） 『保育実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	事前・事後課題（70%）と発表（30%）で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	施設実習Ⅱ	科目ナンバー	J保2313
担当者	赤瀬川　修、松下　茉莉香、本田　和也		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	施設実習Ⅰでの学びを基盤として、以下のことを目標として設定し施設実習Ⅱを行う。①児童福祉施設（保育所以外）・障害者支援施設等の役割や機能について実践を通して理解を深める、②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う、③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する、④保育士としての自己の課題を明確化する。
授業の到達目標	1. 子ども・利用者を受容、共感する態度を身につける 2. 子ども・利用者のニーズ把握、子ども・利用者理解を深める 3. 子ども・利用者への支援技術及び保護者への支援技術を習得する

授業計画		担当者
第1回	施設での生活の意味を深く理解する	赤瀬川・松下・本田
第2回	施設での日課・週課・月課などについて深く理解する	赤瀬川・松下・本田
第3回	施設の役割について深く理解する	赤瀬川・松下・本田
第4回	施設の機能を深く理解する	赤瀬川・松下・本田
第5回	子ども・利用者を専門的視点に基づき観察する	赤瀬川・松下・本田
第6回	観察をもとに記録を作成する	赤瀬川・松下・本田
第7回	個々の特性・背景・状態に応じた援助のあり方について理解する	赤瀬川・松下・本田
第8回	子ども・利用者の活動と生活環境について深く理解する	赤瀬川・松下・本田
第9回	健康管理・安全対策について深く理解する	赤瀬川・松下・本田
第10回	支援計画の意味・役割を理解する	赤瀬川・松下・本田
第11回	支援計画の策定方法について理解する	赤瀬川・松下・本田
第12回	実際に支援計画案を作成する	赤瀬川・松下・本田
第13回	保育士の多様な業務を理解する	赤瀬川・松下・本田
第14回	保育士の職業倫理について理解を深める	赤瀬川・松下・本田
第15回	保育士としての自己課題を明確にする	赤瀬川・松下・本田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	施設実習Ⅰでの学び、課題を整理する。 また、実習において求められる知識・支援技術等について整理し、理解及び技術の獲得に努める。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実習において得られた知識、支援技術等について整理し、新たな課題を見出す	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・実習後にグループ発表及び全体実習報告会を実施し、実習での学びの共有化、理解を深める ・実習終了後に必要と思われる学生に個別の指導を実施する
質問・相談方法	実習訪問教員、もしくは施設実習指導教員が面接、電話、メール等で質問に対応する
オフィスアワー	赤瀬川：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館409号室） 松下　：月曜日　16:30～18:00　研究室（本館602号室） 本田　：水曜日　16:30～18:00　研究室（西館311号室）

テキスト	『ワークシートで学ぶ施設実習』 和田上貴昭ら編　同文書院　2020年　（ISBN：978-4-8103-1494-6） 『保育実習の手引き』 鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	実習施設による評価（100%）
GPA基準	
備考	

科目名	学校経営と学校図書館	科目ナンバー	J司1350
担当者	岩下雅子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	―
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	司書教諭の資格を取得するために学校図書館運営の実際と法的根拠について学ぶ。学校図書館とPTA、地域、公共図書館等との連携について具体例を挙げながら説明する。授業では学校図書館行事等の発想力・企画力を培うためにグループワークをする。今後の学校図書館の課題や可能性について講義する。
授業の到達目標	1. 学校経営の中の学校図書館の位置づけと意義を学び理解する 2. さまざまな学校図書館の事例を学ぶことで学校司書と司書教諭の果たす役割について関係づけられるようになる 3. 学校図書館運営についてグループでのディスカッションを通して発想力・企画力を培うことができるようになる

授業計画		担当者
第1回	映画「やさしい本泥棒」をとおして読書の意義・役割について考察する(1)	岩下
第2回	映画「やさしい本泥棒」をとおして読書の意義・役割について考察する(2)	岩下
第3回	「学校図書館法」から学校図書館の意義と教育的理念を学び法的根拠についても理解する	岩下
第4回	鹿児島県の学校図書館の現状についてグループディスカッションを通して今後の課題と展望を考察する	岩下
第5回	学校図書館運営①（様々な図書館行事の企画運営を学び実践に繋がる力を培う	岩下
第6回	学校図書館運営②（様々な小学校の図書館運営について理解を深める）	岩下
第7回	学校図書館運営③（様々な中学校の図書館運営について理解を深める）	岩下
第8回	学校図書館運営（様々な高等学校の図書館運営について理解を深める）	岩下
第9回	学校図書館運営⑤（特別支援学校の図書館運営とインクルーシブ教育について理解を深める）	岩下
第10回	学校図書館とネットワーク（PTA、地域、公共図書館等の連携をグループ学習で討議し、発表して理解を深める）	岩下
第11回	読書感想文の全国の取組みについてグループで事例研究し、発表を通して意義と手法について理解を深める	岩下
第12回	読書感想画の全国の取組みについてグループで事例研究し、発表を通して意義と手法について理解を深める	岩下
第13回	学校図書館の施設・設備をグループで構築し、発表を通して学校図書館の機能(心の居場所)について理解を深める	岩下
第14回	児童生徒の「心の居場所」としての学校図書館をグループでデザインし、発表を通して企画力を培う	岩下
第15回	学校図書館と学校司書の役割について今後の課題と展望をグループディスカッションを通して考察する	岩下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連	高等学校及び短期大学図書館司書(専門員)であったという実務経験を活かして、授業内容が図書館現場の実情に即したより実務的なものとなるように努める		
事前学習	事前に出された課題は指定された日までに提出する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回授業内容についてのコメントを課す	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	提出した課題、レポート等は添削の後に返却する。
質問・相談方法	授業終了後に受け付ける。
オフィスアワー	火曜日　12:05～12:55　講義室（本館309号室）

テキスト	教科書は特に指定しない。講義中に配付するプリントを用いる。
参考文献等	『学校営々と学校図書館』 野口武悟(等)　2013年　NHK出版　3200円　（ISBN：4595314513）
成績評価基準	「読書センター」「学習・情報センター」としての学校図書館とは何か、またその位置づけを理解したものは合格とする。
成績評価の方法	試験（60%）　レポート（30%）　発表（10%）　で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	

科目名	学校図書館メディアの構成	科目ナンバー	J司1351
担当者	川戸　理恵子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	―
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	学校図書館は、児童および生徒の学習活動と読書活動を行うために活用される場所である。そこで、学校における教育活動に有益な学校図書館を作り上げるため、学校図書館メディアの役割や、必要とされるメディアの種類、特質、組織化について理解してもらう。 なお、本講義には各回で扱われるテーマについて、授業計画に記入されているもの以外にもディスカッションやグループワーク等を行うことがある。
授業の到達目標	1. 学校図書館メディアの種類・性質と扱い方について理解する 2. 学校図書館メディアの組織法について理解する 3. 学校図書館におけるメディアの提供のあり方を理解する

授業計画		担当者
第1回	学校図書館メディアの意義と役割	川戸
第2回	学校図書館メディアの種類と特性	川戸
第3回	学校図書館メディアの収集	川戸
第4回	学校図書館メディアの整理	川戸
第5回	目録作業の概要	川戸
第6回	目録作業の実際1（目録作成の基礎）	川戸
第7回	目録作業の実際2（目録作成の応用）	川戸
第8回	主題分析の概要、件名付与の概要	川戸
第9回	件名付与の実際（件名付与の演習）	川戸
第10回	分類作業の概要	川戸
第11回	分類作業の実際1（分類付与の基礎）	川戸
第12回	分類作業の実際2（分類付与の応用）	川戸
第13回	学校図書館メディアの配架	川戸
第14回	学校図書館メディアの保存	川戸
第15回	総括	川戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					

事前学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読む	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容を踏まえて知識の整理をする	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	火曜日　16:20～17:20　研究室（西館402号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『日本目録規則 1987年版改訂3版』　日本図書館協会目録委員会編　日本図書館協会　2006年　3,500円（税抜き）（ISBN978-4-8204-0602-0）『日本目録規則 2018年版』　日本図書館協会目録委員会編　日本図書館協会　2018年　5,000円（税抜き）　（ISBN978-4-8204-1814-6）『日本十進分類法 新訂10版』　もり・きよし原編　日本図書館協会　2014年　6,500円（税抜き）　（ISBN978-4-8204-1413-1）『基本件名標目表 第4版』　日本図書館協会件名標目委員会編　日本図書館協会　1999年　6,700円（税抜き）　（ISBN978-4-8204-9912-1）『小学校件名標目表 第2版』　全国学校図書館協議会件名標目表委員会全国学校図書館協議会編　全国学校図書館協議会　2004年　5,400円（税抜き）　（ISBN4-7933-0071-5）
成績評価基準	学校図書館メディアの種類と特性、図書館における組織法について理解すること。 学校図書館におけるメディアの提供のあり方を理解すること。
成績評価の方法	受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(20%)、定期試験(70%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	学習指導と学校図書館	科目ナンバー	J司1452
担当者	岩下雅子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	―
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業（教科支援）にとどまらず「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館についてを理解する。司書教諭としての資質や職務内容について学ぶとともに学校図書館と全教科の授業支援の具体的な事例を挙げながら説明し、学校司書との協働についても学ぶ。
授業の到達目標	1．学習指導と学校図書館の利活用ついて学ぶ 2．学習指導（授業支援）と学校図書館をうまくコーディネイトするために、司書教諭が果たす役割について学ぶ

授業計画		担当者
第1回	学校図書館利用指導①学校図書館オリエンテーションについてグループで討議する	岩下
第2回	学校図書館利用指導②学校図書館における情報リテラシーについて学ぶ	岩下
第3回	小学校の図書館教育（小学校1年から6年までの国語の教科書を参考にグループディスカッションを通して図書館利用法、読書指導を体系的に理解する）	岩下
第4回	中学校の図書館教育（中学校1年から3年までの国語の教科書を参考にグループディスカッションを通して図書館利用法、読書指導を体系的に理解する）	岩下
第5回	高校の図書館教育（学年に応じた図書館利用、読書手法を用いたスタディスキルを体系的に学び理解する）	岩下
第6回	教科学習に活用する学校図書館①グループ学習を通して教科に関連したテーマのブックトークを構築する	岩下
第7回	〃　②グループで構築したブックトークの発表を通して手法を理解しスキルアップに繋げる	岩下
第8回	〃　③教科に関連した図書を数冊取り上げてパスファインダーを作成する	岩下
第9回	〃　④パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる	岩下
第10回	〃　⑤学校図書館を活用した授業支援事例について具体的に学び理解する	岩下
第11回	〃　⑥新聞を活用した授業の事例(NIE)について理解し、実際に授業を構築する準備を進める	岩下
第12回	〃　⑦新聞を活用した授業の事例(NIE)について発表を行い、さらにディスカッションを通してスキルアップに繋げる	岩下
第13回	〃　⑧特別な支援を必要とする児童生徒への学習支援について理解する	岩下
第14回	授業支援をするために「読書センター」「学習・情報センター」としての学校図書館はどうあるべきかグループディスカッションを通して考察する	岩下
第15回	学習指導における司書教諭、学校司書の役割と、授業と連携する学校図書館や公共図書館の支援についてｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを通して理解を深める	岩下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連	高等学校及び短期大学図書館司書(専門員)であったという実務経験を活かして、授業内容が図書館現場の実情に即したより実務的なものとなるように努める		
事前学習	事前に出された課題は指定された日までに提出すること。毎回授業の感想を提出する。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	事前に出された課題は指定された日までに提出すること。毎回授業の感想を提出する。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	提出した課題、レポート等は添削の後に返却する。
質問・相談方法	授業終了後に受け付ける。
オフィスアワー	火曜日　16:10～16:20　講義室（本館309号室）

テキスト	教科書は特に指定しない。授業中に配付するプリントを用いる。
参考文献等	『新訂　学習指導と学校図書館』堀川照代 NHK出版　2011年　3200円　（ISBN：4595312250）
成績評価基準	学校図書館が取り組んでいる授業支援について現状を学び、これからの学習指導について理解しているものは合格とする。
成績評価の方法	試験(60%)　レポート（30%）　発表（10%）で総合的に判断する
GPA基準	
備考	

科目名	情報メディアの活用	科目ナンバー	J司1454
担当者	渡邉　光浩		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	資格養成科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	―
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだりと、情報メディアも多様化している。このような現在において学校図書館で情報メディアをどのように活用すべきか、情報機器演習で培ったリテラシーを基にして考える。
授業の到達目標	1. 情報メディアを活用するときの司書教諭の役割を理解することができる 2.　情報メディアを活用した学校図書館のあり方について考えることができる 3. 学校で情報メディアを活用するときの留意点を理解することができる

授業計画		担当者
第1回	情報メディアってなんだろう	渡邉
第2回	学校図書館と情報メディア	渡邉
第3回	情報社会化の歴史と情報通信技術	渡邉
第4回	学校教育の情報リテラシー	渡邉
第5回	情報検索と情報収集	渡邉
第6回	様々な情報資源	渡邉
第7回	インターネットの情報資源	渡邉
第8回	情報の集約・編集に役立つ機器	渡邉
第9回	情報メディアと知的財産制度	渡邉
第10回	著作物の利用と注意点	渡邉
第11回	児童生徒の活動と注意点	渡邉
第12回	図書館のネットワーク	渡邉
第13回	学校図書館と特別支援教育	渡邉
第14回	今後の課題と展望	渡邉
第15回	まとめ（最終課題レポート）	渡邉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭の実務経験を活かして情報メディアや学校現場での活用について教授する。		
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識を確認し、必要に応じて事前に調べてしておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・復習し、理解が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。 ・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・毎回のレポートについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、UNIVERSAL PASSPORTでの連絡やオフィスアワーの利用をする。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、UNIVERSAL PASSPORTの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	火曜日・水曜日　16:25～17:55　研究室（西館417号室）

テキスト	『情報メディアの活用』 山本順一、気谷陽子　放送大学教育振興会　2016年　2800円（税抜き）（ISBN：978-4-595-31649-4）
参考文献等	特になし
成績評価基準	・情報メディアを活用するときの司書教諭の役割を理解できること ・情報メディアを活用した学校図書館のあり方について考えることができること ・学校で情報メディアを活用するときの留意点を理解できること
成績評価の方法	・毎回のレポート（60%）と最終課題レポート（40%）で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・レポートは、Web を用いて提出すること（提出の仕方は授業で説明を行う）